

令和5年度版  
「盛岡の先人教育」実践事例集

目 次

- 1 盛岡市立渋民小学校
- 2 盛岡市立生出小学校
- 3 盛岡市立渋民中学校
- 4 盛岡市立見前小学校
- 5 盛岡市立津志田小学校
- 6 盛岡市立見前中学校



# 渋民中学校区先人教育 めざす子ども像

【渋民中学校区先人教育目標】  
 先人の生き方から自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童・生徒

それぞれの目標や夢などの課題に向かって、自分事として物事を決定し、実践する力



**渋民中学校、渋民小学校、生出小学校の特色ある教育活動**  
 (生活・総合学習発表会 啄木祭への参加 群読劇 等)

**盛岡の先人教育 (石川啄木・原敬・金田一京助・米内光政・新渡戸稲造)**  
**各地域の先人や先輩方の姿**

**各教科・特別の教科道徳・総合的な学習の時間・特別活動等**



令和5年度  
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

先人の生き方や考え方から自己  
の生き方を見つめ、主体的に行動  
する児童の育成

～小中連携を通した

先人教育の実践を通して～

盛岡市立渋民小学校

# 【渋民小学校】 先人教育全体計画

盛岡市第2期  
推進計画より

**【授業について】**

- ・小中学校の系統性を踏まえた先人の生き方を学ぶ授業
- ・先人の各記念館の訪問・講話
- ・授業実践資料の有効活用

**【時代や思いに触れる体験】**

- ・先人カレンダーの掲示
- ・先人を学ぶコーナーの設置
- ・俳句、短歌大会
- ・一筆啓上への取組
- ・先人ゆかり給食

**【教員の研修】**

- ・長期休業中の研修
- ・各記念館の館長、学芸員との連携

**【児童の実態】**

- ・生活科及び総合的な学習を通して、地域への関心はある。また、地域の人々や文化、自然への興味・関心、郷土への愛着はあるものの、地域の課題に対し主体的に取り組む姿勢及び技能がやや低い傾向にある。

**【地域の実態】**

- ・盛岡の北側に位置し、田畑が広がり、自然豊かな土地である。
- ・渋民は、石川啄木生誕の地として、各所に石碑や記念館がある。
- ・生出は、南側は稲作、北部が畑作や酪農、地域全体に数か所の湧口があり、湧水を利用した養鰯業が営まれている。

**【保護者の願い】**

- ・目標に向かって意欲をもって取り組もうとする子どもになってほしい。
- ・地域のよさを知り、地域を愛する子どもになってほしい。

**【盛岡市の先人教育】**

盛岡にゆかりのある先人（原敬 新渡戸稲造 米内光政 石川啄木 金田一京助など）の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むこと。

- より良い価値を思考していこうとする豊かな心の育成。
- 郷土の自然の美しさ、高い文化、人々のあたたかさ、ふるさと盛岡への誇り。

盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を

「夢」…将来に対する希望、実現したい、自分のめざす理想  
 「誇り」…自分や自分のふるさとに対する愛着、自信  
 「志」…目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意

**【渋民中学校区 めざす子ども像】**

先人の生き方から、自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童・生徒

**【渋民小学校 学校教育目標】**

- 進んで学ぶ子ども
- 進んで助け合う子ども
- 進んで鍛える子ども

**【渋民小学校 めざす子ども像】**

先人の生き方から、そのよさを知り、地域を愛し、主体的に行動する児童

**【渋民中学校区 キャリア教育目標】**

自分や友達によさ、個性に気づき、自分の生活や周りの環境に関心をもち、将来の夢や希望を抱くとともに、その夢や目標に向かって努力する態度を育てる。

	各教科・特別の教科道徳	生活科・総合的な学習の時間	特別活動
1年	・道徳「お正月」「はちさんのバッジ」 ・音楽「にほんのうたをたのしもう」	・啄木カルタで遊ぼう ・地域探検	・啄木カルタクイズ ・先人ゆかり給食
2年	・道徳「おらも医者になる」 ・国語「すてきなところをみつけよう」 ・道徳「大きくなあれ しあわせになあれ」	・啄木公園で遊ぼう ・公共施設探検（渋民図書館等）	・先人カレンダーの掲示・活用 ・啄木カルタ検定（音楽委員会） ・市短歌、俳句大会
3年	・社会「まちのようす 市の様子」 ・国語「俳句を楽しもう」 ・道徳「心をつないだ合言葉」 ・道徳「鄭君の秋田竿灯まつり」	・歌碑調べ ・渋民公園等、啄木関連の場所見学 ・渋民の大好きなところ	
4年	・国語「世界にほこる和紙」 ・社会「新田はどうやってできた」 ・道徳「風呂敷1枚で」 ・道徳「アメリカとの出会い ジョン万次郎のぼうけん」	・啄木ってどんな人 ・啄木記念館見学 ・ゲストティーチャーから学ぶ ・短歌調べ	・委員会活動 ・一筆啓上 ・啄木カルタ大会への取組
5年	・国語「新聞を読もう 事実にもとづいて書かれた本を読もう」 ・社会「農業・産業」 ・道徳「太陽の架け橋 新渡戸稲造」	・伝統を引き継ごう ・原敬・新渡戸稲造・金田一京助・米内光正	・啄木祭参加（鼓笛練習）
6年	・国語「短歌」 ・社会「歴史」 ・道徳「近代製鉄の父～大島高任～」		・修学旅行（啄木ゆかりの地へ行く）

関連する活動	学級経営	生徒指導	外国語・外国語活動	ボランティア教育
	・自己目標の実現 ・当番活動	・自己理解・他者理解 ・粘り強さ	・日本と外国の伝統や文化の違い	・クリーンアップ作戦

学校名	盛岡市立渋民小学校	児童数	296名
研究主題	「先人の生き方から自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童・生徒の育成」 ～小中連携を通した先人教育の実践を通して～		

### 1 研究主題設定の理由

盛岡市教育基本計画における「目指す市民像」は、「多くの先人を育ててきた美しいふるさと岩手を愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び共に生きる未来を創る人」である。この市民像に迫るため、平成27年度から第2期推進計画のもと、小中学校9年間の系統性を踏まえた先人教育の取り組みが推進されている。

本校は、今年で創立150年を迎え、学校教育目標を「学びの道に進めかし」とし教育活動を行っている。先人の生き方や考え方を調べたり、意見を交流したりすることを通し、目標に向かって努力することの大切さを学ぶことができる。渋民小学校区や盛岡市にゆかりのある石川啄木、金田一京助など先人の生き方を学ぶことを通して、自分の生き方を見つめ、主体的に考え行動する児童の育成ができるとし、この主題を設定した。

### 2 研究目標

- ・自分たちの生まれ育った地域や郷土を愛し、美しいふるさとを大切にしようとする子どもの育成
- ・先人の生き方や考え方を学ぶことを通し、自分の将来の夢や希望をもち目標に向かって努力する子どもの育成

### 3 研究の基本的な考え方

#### (1) 本年度の重点

- ・石川啄木の作品や遺産に触れることを通し、郷土のよさを実感し、ふるさとを大切にすることを育てる。
- ・盛岡の先人たちの考え方や、生き方を学び、行動の素晴らしさを捉え、自分の将来のあり方を考えさせる。

#### (2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・定期的な担当者会議を開き、研究の方向性を確認する。
- ・ブロック研を利用した先人学習の授業を参観し合うとともに、「先人教育を通じて目指す子ども像」、「先人教育全体計画」とその具体について各校全教職員で共通理解を図る。
- ・9年間を見通した系統的な指導の道筋を確認し、更に推し進めていく。

単元名	啄木カルタに挑戦しよう！	学年	1 学年
-----	--------------	----	------

## (1) ねらい

- ・地域の先人「石川啄木」について、興味をもつ。
- ・「啄木カルタ検定」全員合格を目標に、練習に取り組む。

## (2) 指導計画 (12 時間)

段階	内容
4 月 (2 時間)	・啄木カルタについて簡単に説明する。
5 月～8 月 (5 時間)	・啄木カルタ 10 級、9 級を音読カードに位置付けて、読む練習をさせる。
9 月 (3 時間)	・教室の入り口に「カルタ」の句を貼り、登校時に声を出して読む。 ・朝の会や帰りの会で「啄木タイム」を設け、「上の句」の読み上げで「下の句」を言えるようにする。
10 月 (2 時間)	・10 級・9 級のカルタ検定の実施

## (3) 活動の様子

- ① 石川啄木については、学校にある石碑や校歌、渋民公園の歌碑等が身近にあるため児童にとっては親しみのもてる地域の先人である。1 年生では、兄・姉が「啄木カルタ」に取り組む姿も見ており、関心が高い。
- ② 音読カードに「啄木カルタ」を位置付けたが、難しい言葉遣いもあり、何度か読んだだけでは暗唱には至らない児童もいた。関心のある児童は何首か暗記することができた。
- ③ 毎朝教室に入る前に、戸口に貼ってある「啄木カルタ」を声に出して読み、暗唱できるようにさせる。難しい言葉遣いは、ひらがなを振り、1 週間通して、取り組むことで暗唱できるようになった。全部で 20 首あるので、計画的に取り組んでいる。さらに 8 級・7 級と上を目指す児童も出てきた。
- ④ 「朝の会」「帰りの会」の「啄木タイム」では、担任や日直が中心となり、「上の句」と「下の句」の確認をした。
- ⑤ 「啄木カルタ大会」全員合格を目指し、20 首の句に取り組んでいる。



## (4) 考察

- ・学習発表会では、「おむすびころりん」の劇中に、ねずみの出し物として「啄木カルタ」を取り入れた。発表するのは 10 名程度であったが、何度も練習を重ねているうちに、周りの児童も耳で聴いて覚え、学年全体で啄木カルタ 10 級の定着度が大幅に上がった。
- ・馴染みのない言葉であっても、繰り返し聴き、暗唱できるようになったことで、「これってどういう意味なの？」とつぶやく児童も増えてきている。
- ・「難しい短歌がすらすら言えるようになって嬉しい」という意識からステップアップするために、短歌に詠まれている内容を知る機会を設けていきたい。



単元名	「どきどきわくわくまちたんけん」 「もっとなかよしまちたんけん」	学年	2 学年
-----	-------------------------------------	----	------

## (1) ねらい

- ・地域のさまざまな場所に出かけ、地域にはどんな場所があり人がいるのか調べたり、自分たちの生活と関わっていることに気付いたりすることができる。
- ・自分たちの地域に愛着をもち、好きな場所や地域のよさを伝えることができる。

## (2) 指導計画 (19 時間)

段階	内容
4～5月 (10 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちのことを話そう。(1)</li> <li>・たんけんの計画を立てよう。(1)</li> <li>・まちをたんけんしよう。(6)</li> <li>・見つけたことをつたえ合おう。(2)</li> </ul>
9月～10月 (9 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たんけんの計画を立てよう。(3)</li> <li>・まちたんけんで、ちいきの人に話を聞こう。(4)</li> <li>・ちいきのすきなばしょや人などをしょうかいしよう。(2)</li> </ul>

## (3) 活動の様子

- ① 1 学期の町探検では、渋民公園や学校を中心とした渋民中心部を歩き、普段気付かなかった物や場所に気付くことができた。大型ショッピングセンターや公園、消防署、お寺、保育園、店、石川啄木の歌碑や啄木記念館、姫神ホールなどの沢山の施設や、普段歌っている校歌の中に登場する「生命の森」や愛宕神社などが、身近な場所にあること、そして自然豊かな田園風景の中にある岩手山の美しさを感じ取ることができた。また、出会った方と挨拶をしたり、お話を聞いたりする中で、地域への関心や親しみの気持ちが高まった。



- ② 2 学期の町探検では、町の施設や店を訪問し、お話を聞いたことを友達に紹介し合ったり、学習発表会の劇中で発表したりすることで、自分たちの地域の「好きな場所」や「すてきな人」について気付き、より地域への愛着をもって生活することができるようになった。

## (4) 考察

- ・コロナ禍の間、校外の人と会う活動がほとんどできなかったが、この学習を通じて再び学校と地域の連携を図り、ご協力をいただきながら、身近な地域の探検活動を行うことができた。地域の方との触れ合いを通して、地域への親しみや愛着をもつことにつながった。
- ・町探検で発見したことをカードに記し、探検マップにして友達と伝え合う活動を通して、自分のお気に入りの場所を伝える喜びを感じ、自分の地域（ふるさと）という意識が高まった。

単元名	「新・奥の細道」を歩こう	学年	3 学年
-----	--------------	----	------

## (1) ねらい

- ・ 渋民の風土に親しみ、石川啄木の作品に触れることを通し、生まれ育ったふるさとを大切にする心を育てる。

## (2) 指導計画（8時間）

	内容	指導の手立て
導入 (1時間)	1 先人カレンダーで紹介されている石川啄木について学習計画を立てる。(1)	○石川啄木の生涯や業績について大まかな説明を聞き、興味をもたせる。 ○啄木カルタを体験させる。
展開 (6時間)	2 啄木の歌碑を調べる。(4) ・啄木に関わりのある施設や歌碑・短歌がある場所を探す。 3 啄木マップを作る。(2) ・社会の町探検で活用した地図に施設や歌碑・短歌があるところを表す。	○歌碑を見つけた場所の風景を見て、当時の啄木の気持ちを考えさせる。また渋民の景色の素晴らしさを感じさせる。 ○見つけた歌碑の歌をメモさせる。 ○渋民駅に置いてあるパンフレットを資料として活用させる。
終末 (1時間)	4 感想を話し合おう。(1) ・完成したマップを見て感想を発表しあう。	○啄木の短歌や渋民の風土に親しみ、ふるさとを大切にする気持ちを育てる。

## (3) 活動の様子

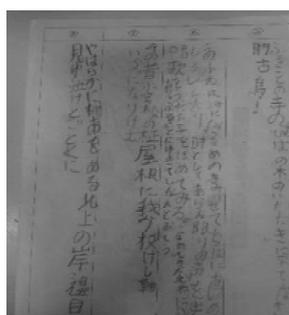
## ①啄木の歌碑を調べる



学校や学校周辺の施設に行き、歌碑がどこにあるか探し、ワークシートに短歌を書きうつした。歌碑を見つけた場所の風景を見ながら、当時の啄木の気持ちを考えさせた。また、自分たちの住む渋民の景色の良さを感じさせた。行けないところは、渋民駅に置いてあるパンフレットを参考にワークシートを完成させた。

## ②啄木マップ作り

社会の時間で作った絵地図に歌碑があった場所を記す。身近なところに石川啄木の短歌があふれていることに気づき、啄木や渋民の街の様子についての興味関心が高まった。



子どもたちのワークシート。歌碑の短歌を書き写した。



子どもたちの作った絵地図。歌碑のある場所を記した。

単元名	心をつたえよう	学年	4 学年
-----	---------	----	------

## (1) ねらい

- ・石川啄木の作品に触れたり、人柄や生活の様子を調べたりすることを通し、啄木に関心をもつ。

## (2) 指導計画（8時間）

段 階	内 容
導入（1時間）	・先人カレンダーで紹介されている石川啄木について学習計画を立てる。
展開（5時間）	・3年生の頃に調べたことや自分が好きな短歌から啄木の人物像を想像させる。 ・石川啄木について調べる。（インターネット、図書室の本） ・宝徳寺を訪問する。
終末（2時間）	・新聞をつくる。

## (3) 活動の様子

## ① 啄木について3年生の頃に調べたことや自分が好きな短歌から啄木の人物像を想像させる

3年生の頃に選んだ「好きな短歌」を振り返り、石川啄木という人はどんな人なのか、短歌から受けるイメージで想像させた。「やわらかに柳あおめる北上の～」や「かにかくに渋民村は恋しかり～」などを選ぶ児童が多く、啄木さんは「優しい人」「ふるさとを大切に思う人」と感じる児童が多かった。



## ② 宝徳寺を訪問する

宝徳寺を訪問し、住職さんのお話を聴くことができた。児童にあわせ、ユーモアを交えて、楽しく話していただいた。渋民公園にある啄木さんの歌碑は姫神山から運んできたこと、啄木という名前の由来、啄木さんはおしゃれに気を遣い、髪型を整えるのに卵の白身を使ったことなど、住職さんからの話は盛りだくさんであった。児童からは、「へ～。」「えー！」などの声上がり、興味をもって話を聞きながらメモをとる児童の様子が見られた。東京に住むことになっても、渋民に戻ってくる啄木のことを聴き、ふるさとを大切にしていることを強く感じると共に学習を進めていくたびに、石川啄木に対する親しみの気持ちが増していたように感じる。



また、宝徳寺の敷地内にある歌碑や啄木が生活していた部屋等を見学させていただき、石川啄木という人が実際に存在したのだということを実感していた。



## ③ 学習を振り返り、新聞を作成する

今までの活動を振り返り、宝徳寺訪問後の石川啄木のイメージを考えさせた。ただ単に「優しい人」ではなく、人間味のある身近な存在というイメージが変わってきたようである。確かに石川啄木は私たちが住む渋民にかつて存在していて、友達や寺の檀家さんに囲まれて、生活していた。児童なりに感じたことを新聞に表し、発信することができた。



単元名	金田一京助について調べよう。～クイズで紹介しあおう～	学年	5学年
-----	----------------------------	----	-----

## (1) ねらい

- ・金田一京助について調べ、クイズを作ることを通して盛岡の先人についての理解を深める。

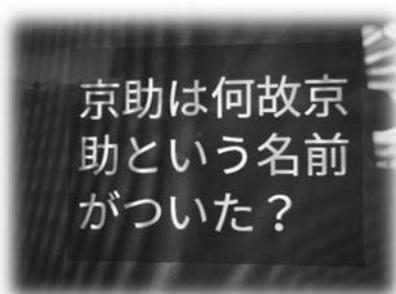
## (2) 指導計画 (5時間)

段階	内容
導入 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金田一京助について、簡単な説明を聞く。金田一京助の生い立ちについて「盛岡の先人」を読み教師が作った問題を解く。</li> <li>・ロイロノートの使い方を確かめる。</li> </ul>
展開 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットや「盛岡の先人」を使って調べる。</li> <li>・調べたことをロイロノートのカードにまとめ、発表の準備をする。</li> <li>・先人クイズ大会を行い、先人についての理解を深める</li> </ul>
終末 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を振り返り、学習のまとめをする。</li> </ul>

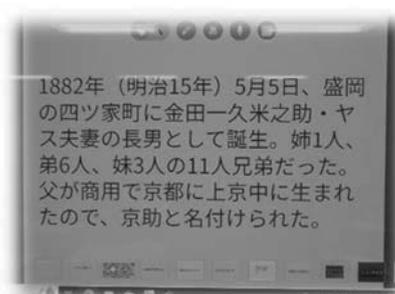
## (3) 活動の様子

## ① 先人について調べる

自分が選んだ人物について、インターネットや「盛岡の先人」を使って調べた。金田一京助の小さかった頃、学生時代、大人になって、その後、石川啄木との関わり等ロイロノートのカード1枚ずつにまとめていった。まとめることを通して先人への理解を深めた。



【児童が作った問題】



【問題の答え】



【調べたことをまとめている様子】

## ② クイズ大会

班の中でクイズを出し合い理解を深めた。また、代表者がクラス全体の前でクイズを出し先人について学んだ。クイズを出し合うという目的のもと、調べ学習を行ったことで、先人について主体的に調べようという態度が見られた。



## ③ 振り返りの様子

児童の感想からは、金田一京助について理解が深まった記述がみられた。

・火事で怖がらず火を消そうと思ったことと、アイヌ語のことを知り自分がやらなければならないと思い行動したのがすごいと思いました。京助さんの他人のためや家族を守るために行動しているところを少しでも見習って行動したいと思いました。

・僕は、金田一京助さんについて調べて「小さいころたくさん本を読んでいたこと。」や「お金に困っている石川啄木さんを助けたこと。」を知りました。京助さんは優しい人だなと思いました。

単元名	We love 盛岡 ～盛岡(先人)について調べ、生き方を考えよう～	学年	6学年
-----	------------------------------------	----	-----

(1) ねらい

- ・盛岡の先人の生き方を学ぶことを通して、盛岡の風土に誇りをもち、自分の生き方について考えることができる。

(2) 指導計画 (20 時間)

段 階	内 容
① 1 学期後半	【先人教育】
導入 (1 時間)	・オリエンテーション
展開 (3 時間)	・「原敬」「新渡戸稲造」「米内光政」の中から一人選び、調べる。 ・選んだ先人について副読本「盛岡の先人」を読み、調べる。 ・選んだ先人について調べたことをワークシートにまとめる。
② 2 学期	【総合的な学習の時間と関連させて…】
展開 (10 時間)	・函館の街の特徴、有名なものや場所、函館とゆかりのある先人(石川啄木など)について、班で調べたいものを決め、調べる内容の役割分担をする。 ・修学旅行の事前学習(函館について調べる) ・修学旅行で啄木ゆかりの地(啄木の墓、土方・啄木浪漫館、啄木小公園)をめぐり、啄木について調べる。 ・事後学習として、啄木第2の故郷「函館の魅力」についてまとめ、5年生に発表する。
③ 3 学期	【キャリア教育と関連させて…】
展開 (4 時間)	・盛岡の魅力(自然、場所、食べ物、先人等)について調べ、まとめる。
終末 (2 時間)	・先人の生き方から学んだことをまとめ、自分の将来について考え、考えたことを発表する。

(3) 活動の様子

- ・「原敬」「新渡戸稲造」「米内光政」の中から一人選んで調べる学習では、(ア)先人の功績について(イ)先人の人柄が分かるエピソード(ウ)先人から学んだこと・今後の自分に生かしたいことの3点でワークシートにまとめた。以下は児童のワークシートから抜粋。

自分も何回失敗してもいいから、みんなができないことをできるようになりたいです。光政のように、ぼくも人をまとめられるようになりたいです。	光政はひかえ目だけど、大事な時にきちんと仕事をやるところがすごいと思った。ぼくも、やる時はやるという決意をもって行動していきたい。
稲造のように人を想う心を大切にしたいです。そして、自分の意見をはっきりと人に伝えられるようになりたいです。	原敬は総理大臣となり、差別と対立をなくすことを一生の目的に取り組んでいてすごいと思った。他の人の気持ちを考えられる人に私もなりたい。



(4) 考察

- ・先人の功績を調べてまとめるだけでなく、人柄や性格について考えずに引き寄せてみることで、先人を身近に感じることができた。また、修学旅行での学習を通して故郷の先人「石川啄木」についてより深く知ることができた。
- ・児童が理解できる資料が限定されていた。分かりやすい資料を準備してから学習させるなど工夫が必要である。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・地域にある先人（石川啄木）ゆかりの建物や碑等を巡り学習したことで、先人の功績の偉大さを知るとともに身近に感じることができた。郷土のよさを実感し、ふるさとを大切にする気持ちをもつことができた。
- ・先人教育全体計画に合わせて、学習を進めることができた。4年生で、啄木が幼児期を過ごした宝徳寺を見学し6年生では、啄木終焉の地函館を見学し学習を締めくくることができた。石川啄木の一生について学ぶことができた。
- ・石川啄木について詳しく知ることで、夢を持ちそれに向かって努力することの大切さを学んだ。
- ・啄木カルタに全学年で取り組んでいる。10 級～1 級まであり学年に応じて短歌を暗記することで啄木についての学習の入口にすることができた。

### (2) 課題

- ・本校出身の石川啄木に特化していてそれ以外の先人を扱う時間が少ないように感じる。全体計画の見直しが必要である。
- ・学習内容が引き継がれるよう、今年度の学習を次年度に引き継いでいく。

令和5年度  
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

先人の生き方や考え方から自己  
の生き方を見つめ、主体的に行動  
する児童の育成

～小中連携を通した

先人教育の実践を通して～

盛岡市立生出小学校

# 渋民中学校区【生出小学校】 先人教育全体計画

**【児童の実態】**  
 ・小規模校であり、学年を越えて仲良く過ごすことができる。  
 ・生活科及び総合的な学習を通して、地域への関心が高く、地域の人々や文化、自然への興味・関心が高く、郷土への愛着はあるものの、地域の課題に対し主体的に取り組む姿勢及び技能がやや低い傾向にある。

**【地域の実態】**  
 ・盛岡の北側に位置し、田畑が広がり、自然豊かな土地である。  
 ・渋民は、石川啄木生誕の地として、各所に石碑や記念館がある。  
 ・生出は、南側は稲作、北部が畑作や酪農、地域全体に数か所の湧口があり、湧水を利用した養鱒業が営まれている。

**【保護者の願い】**  
 ・自分の言葉で表現できる子どもになってほしい。  
 ・地域のよさを知り、地域を愛する子どもになってほしい。  
 ・周りと協力し、進んで活動できる子どもになってほしい。  
 ・目標をもって、実践する子どもになってほしい。

**【盛岡市の先人教育】**  
 盛岡にゆかりのある先人（原敬 新渡戸稲造 米内光政 石川啄木 金田一京助など）の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むこと。  
 ○より良い価値を思考していこうとする豊かな心の育成。  
 ○郷土の自然の美しさ、高い文化、人々のあたたかさ、ふるさと盛岡への誇り。

盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を  
 「夢」…将来に対する希望、実現したい、自分のめざす理想  
 「誇り」…自分や自分のふるさとに対する愛着、自信  
 「志」…目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意

盛岡市第2期推進計画より

**【授業について】**  
 ・小中学校の系統性を踏まえた先人の生き方を学ぶ授業・先人の各記念館の訪問・講話・授業実践資料の有効活用

**【時代や思いに触れる体験】**  
 ・先人カレンダーの掲示  
 ・先人を学ぶコーナーの設置  
 ・俳句、短歌大会  
 ・一筆啓上への取組  
 ・先人ゆかり給食

**【教員の研修】**  
 ・長期休業中の研修  
 ・各記念館の館長、学芸員との連携

**【渋民中学校区 めざす子ども像】**  
 先人の生き方から、自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童・生徒

**【生出小学校 学校教育目標】**

- 思いやりのある心豊かな子ども
- 目あてをもって学習にはげむ子ども
- すすんで身体をきたえる子ども

**【渋民中学校区 キャリア教育目標】**  
 自分や友達によさ、個性に気づき、自分の生活や周りの環境に関心を持ち、将来の夢や希望を抱くとともに、その夢や目標に向かって努力する態度を育てる。

**【生出小学校 めざす子ども像】**  
 先人の生き方から、そのよさを知り、地域を愛し、主体的に行動する児童

	各教科・特別の教科道徳	生活科・総合的な学習の時間	特別活動
1年	・道徳「お正月」 ・音楽「にほんのうたをたのしもう」	・啄木カルタで遊ぼう ・生出・好摩探検	・先人ゆかり給食 ・川柳
2年	・道徳「おらも医者になる」 ・国語「すてきなところをみつけよう」 ・道徳「大きくなあれ しあわせになあれ」	・啄木公園で遊ぼう（1年） ・玉寿荘訪問	・先人カレンダーの掲示・活用 ・啄木クイズ（集会委員会主催） ・啄木短歌放送（給食時） ・啄木カルタ
3年	・国語「俳句を楽しもう」 ・社会「まちのようす 市の様子」 ・道徳「心をつないだ言葉」 ・道徳「こころにきめて～田中館愛橘～」	・啄木記念館見学 石川啄木・金田一京助 ・生出を知ろう （地域探検 ・盛岡ブランド等）	・委員会活動（2月～）
4年	・国語「世界にほこる和紙」 ・社会「新田はどうやってできた」 ・道徳「ふるしき1枚で」 ・道徳「岩手に盲学校を～柴内魁三～」		・一筆啓上
5年	・国語「新聞を読もう 事実にもとづいて書かれた本を読もう」 ・社会「農業・産業」 ・道徳「太陽の架け橋 新渡戸稲造」 ・道徳「よみがえった街なみ」	・原敬記念館見学（R5） ・先人記念館見学（R6） （隔年実施） 原敬・新渡戸稲造・米内光正 ・ふるさと生出に根ざして	・修学旅行（R6） ・宿泊学習（R5） （隔年実施）
6年	・国語「短歌」 ・社会「歴史」 ・道徳「マザー・テレサ」 ・道徳「近代製鉄の父～大島高任～」		

関連する活動	学級経営	生徒指導	外国語・外国語活動	ボランティア教育
	・自己目標の実現 ・当番活動	・自己理解・他者理解 ・粘り強さ	・日本と外国の伝統や文化の違い	・ユートランドまつり ・敬老メッセージ

学 校 名	盛岡市立生出小学校	児 童 数	27 名
研究主題	先人の生き方や考え方から自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童の育成 ～小中連携を通した先人教育の実践を通して～		

## 1 研究主題設定の理由

「盛岡市の先人教育」は、各教科や道徳科、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次世代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」「目標に向かって努力する心」を育むことを目指している。

そこで渋民中学校区では、先人教育目標を「先人の生き方や考え方から自己の生き方を見つめ、主体的に行動する児童・生徒」とし、それぞれの目標や夢などの課題に向かって、自分事として物事を決定し、実践する力の育成を目指すこととした。ブロック研究会での公開授業・研究会、児童生徒理解のための情報交換、共通の学習モデルの共有など、小中連携の取組を行い、9年間の系統性を踏まえた実践を推進することで、主題にせまることとした。

本校では、「盛岡にゆかりのある先人」と同様、より身近な生出地域の先人にも目を向け、直接的な関わりを通して、その生き方や考え方を学び、夢や希望に向かって努力する子どもを育成するため、本主題を設定した。

## 2 研究の目標

- ・「先人たち」の生き方や考え、業績を学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。
- ・身近な地域や郷土の自然や文化、歴史や伝統に触れることで、地域に対する愛着と誇りをもてるようにする。

## 3 研究の基本的な考え方

### (1) 本年度の重点

- ・先人教育の視点と各教科及び生活・総合的な学習の時間等の関連を図った指導を実践的に推進する。
- ・渋民中学校区での小中学校9年間の系統性を踏まえた実践の充実を図る。

### (2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・定期的な担当者会議を開催し、研究の方向性を確認する。
- ・ブロック研究会を利用した先人学習の授業を参観し合うとともに、「先人教育を通じて目指す子供像」、「先人教育全体計画」とその具体について各校全教職員で共通理解を図る。
- ・9年間を見通した系統的な指導の道筋を確認し、さらに推し進めていく。

## 4 取組の概要

単元名	啄木カルタで遊ぼう	学年	2 学年
-----	-----------	----	------

## (1) ねらい

- ・石川啄木の詠んだ短歌に興味をもち、短歌の響きやリズムに親しんだり、情景を想像したりしながら音読や暗唱をする。

## (2) 指導計画

- ・月に啄木短歌を3首、国語の音読と一緒に毎日詠んで覚える。
- ・生活科見学の時に、歌碑がある場所を尋ね、歌に興味をもたせる。
- ・歌碑の言葉から、啄木について考える。

## (3) 活動の様子

「歌碑を訪ねて」(生活科見学)

- 個々にカメラを持って、出かけた。自分が写真におさめたい場所やアングルを見ると、児童が何に興味を示しているのかが分かった。
- 歌碑に書いてある言葉に興味をもち、話し合うことで啄木の思いを感じることができた。特に二人が興味をもったのは、『雲は天才である』であった。歌碑を見た時に『雲』の字が分からなくて気になっていた。授業の中で、「啄木は、何が天才だと思ったのかなあ。」「天才って、どんなこと?」と考えていくことで、雲がいろいろな形に変化することを楽しんでいると捉え、啄木が「楽しんで空や雲を見ている」様子と考え、啄木カルタで空や雲を見ている短歌を探す活動を行った。



## (4) 考察

- ・自分たちが調べてきた歌碑の字を見て、何と書いてあるのか疑問に思ったことから、啄木が雲を見て短歌を考えていることを想像して、他にも雲や空、風景を見ている短歌を探すことで、啄木カルタに興味をもつことができた。
- ・挿絵が描いてある啄木カルタを使うことで、児童の想像の手助けになり、楽しみながら学習ができた。
- ・月に啄木短歌を3首、国語の音読と一緒に毎日読んで覚えているが、目標をもたせてさらに楽しんで取り組めるように計画する。

単元名	むかしから つたわる あそびを たのしもう	学年	2 学年
-----	-----------------------	----	------

## (1) ねらい

- ・身近な人に昔から伝わる遊びを教わったり、一緒に遊んだりする中で、身近な人と関わったり触れ合ったりすることのよさに気付き、進んで触れ合い、交流しようとするができるようにする。

## (2) 指導計画

		学習内容
導入	1 計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今度、訪問する高齢者施設の人たちを楽しませるために何をしたいか考える。</li> <li>・高齢者施設の人と一緒に遊ぶ計画を立てる。</li> </ul>
展開	2 活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設の人たちと交流するために身近な人に聞いてみたり活動して見たりする。</li> <li>・活動の後、高齢者施設の人たちに喜んでもらうためのアドバイスをもらいながら、一緒に学習の振り返りをする。</li> </ul>
	3 発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気付いたことやできるようになったことを伝え合う。</li> <li>・今回の学びや楽しさをさらに広げる手立てを考える。(施設の訪問)</li> <li>・交流の内容を決める。</li> </ul>
終末	4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設を訪問して、高齢者との交流をする。</li> <li>・遊びや訪問で分かったことを出し合い地域のよさについて話し合う。</li> <li>・訪問した施設にお礼の気持ちを伝える。</li> </ul>

## (3) 活動の様子

「2 活動」より

- 身近な人たちから、昔どんな遊びをしていたか、どんなことが得意なのかを聞くことができた。
- インタビューした遊びから、施設でできることを考え、「こまの名人」をお招きし、見せてもらい、コツを覚えてもらうことができた。教えてもらったことを生かしながら、決められた範囲の中でコマを回せるように練習を繰り返した。

「4 まとめ」より

- 施設を訪問して、たくさんの人たちに喜んでもらうことができた。触れ合っの遊びはできなかったが、発表を見せることで、拍手をもらったり、声をかけてもらったりすることで、交流ができた。
- 訪問後、「何かをしたい」と考え、七夕も近いことから、七夕飾りを作ることを考え、施設のみなさんへの願いを短冊に込めて作り、プレゼントをすることができた。



## (4) 考察

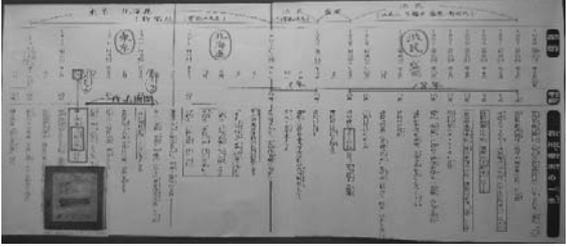
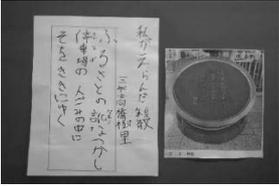
- ・3年ぶりの高齢者施設との交流であったので、児童の戸惑いが感じられたが、身近な人へのインタビューを通して、年配の方と話をする経験をすることで、話し方や声の大きさなどを考えながら行動することが大切であることを学ぶことができた。
- ・高齢者の方々と触れ合うことで、相手を思いやり相手に合わせることについて体験することができた。
- ・地域に住む高齢で様々な活動をしている人たちについて把握し、2年間の生活科で交流や体験できることを見つけ、児童に関わりをもたせられるよう計画を立てていく。

単元名	【総合】郷土の先人 石川啄木から学ぼう	学年	3・4学年
-----	---------------------	----	-------

## (1) ねらい

- ・啄木の短歌から、啄木の望郷の思いを読み取る。

## (2) 展開

	主な学習内容・活動	○学習の様子 ◆評価
導入	1 石川啄木について知っていることを発表する。 2 石川啄木の生涯を振り返る。 3 課題把握 短歌から、啄木の思いをそうぞうしよう	○学習の様子 ◆評価 ○出前講座で習ったこと等、想起する。 ○生涯年表をもとに、啄木の生涯を簡単に振り返る。 
展開	4 課題解決 ・自分が選んだ短歌から感じる、啄木の思いを想像し発表する。 ・友達が選んだ短歌から感じる、啄木の思いを想像し、発表交流する。 5 短歌から啄木の望郷の思いを読み取る。 ・「ふるさとの訛りなつかし 停車場の人ごみの中に そを聴きにゆく」の短歌から、啄木の望郷の思いを読み取らせる。 	○事前に「啄木かるた 25 首」の中から、自分の好きな短歌を選び発表させる。 ◆自分や友達が選んだ短歌から、啄木の思いを想像し、発表できたか。(観察) ○「なぜ訛りを聴きに行ったのか」想像させることで啄木の望郷の思いに気付かせたい。  ◆訛りを聴きに行った啄木のふるさとの思いを想像することができたか。(ワークシート・観察)
終末	6 振り返り ・啄木かるたを行う。	○「啄木かるた」を行い、短歌に親しませる。

## (3) 考察

地域の先人、石川啄木の短歌にこめた望郷の思いを想像する活動を通し、子どもたちが郷土の風土に親しみ、生まれ育ったふるさとを大切にする心の育成につながったのではないかと考える。

## 【成果と課題】

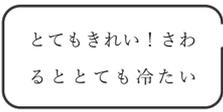
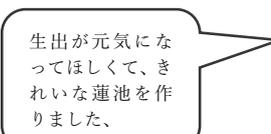
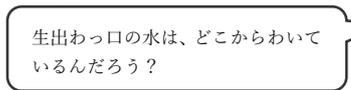
- 子どもたちが選んだ短歌に関する、写真を用意し掲示することで、子どもたちがより、短歌に対する理解や思いを深めることにつながった。
- 石川啄木の生涯年表を用意し説明することにより、啄木が短歌をふるさとの景色を見ながら作ったのではなく、東京で故郷を思いながら作ったことを、理解することができた。(啄木の望郷への思いを、理解することにつながった)
- ▲石川啄木についての調べ学習等を行い、より深く啄木に触れさせる機会を持つ。
- ▲自分たちが選んだ短歌以外にも、「啄木かるた 25 首」の短歌の意味を理解させる活動を行う。

単元名	【総合】「発見！！生出、水の魅力」 【関連教科】総合的な学習の時間・学級活動・道徳	学年	3・4学年
-----	--	----	-------

## (1) ねらい

- ・地域の水に関わる特徴や産業をとらえ、生出地域のよさを知り、地域に貢献している先人の行動や思いにふれ、地域を誇りに思う気持ちを育てていく。

## (2) 指導計画 (20 時間)

	主な学習内容・活動	○学習の様子
つかむ	1 身近な川に触れ合うことで、環境についての理解を深めるとともに、地域の水について関心をもつ。① 2 生出地域の水源や水の関わる産業について見学したり、体験したりする。②③	○川底にいる水生生物の種類や数を調べることで、川の水質を調べる。   ○生出わっ口・養鱒場・蓮池の見学。など
調べる	3 水質調査や生出地区の水源や産業を見学・体験した写真をみて、自分で選びドキュメンテーションを作成する。④⑤ 4 ドキュメンテーションを見せ合う。⑥ 5 設定した課題について何を調べるか考える。⑦ 6 設定した課題について、グループを作り調べる。⑧⑨⑩⑪⑫  	○活動や見学を行った写真を選び、ドキュメンテーションを作成する。 ・「やってみたいこと」や「疑問に思ったこと」「びっくりしたこと」等を写真に、吹き出しをつけて書く。 ○ドキュメンテーションを見せ合い、付箋で感想や予想を貼る。(同意見→黄色の付箋 新たな発見→赤色の付箋) ○生出の水について何を調べたいか考える。(作成したドキュメンテーションをもとにして)   ○調べたい課題を整理し、グループを作る。 ○設定した課題について調べる。
まとめる	7 調べて分かったことをまとめる。⑬⑭⑮⑯	○インタビューしたことをまとめ、整理する。 ○「水質調査」「養鱒場」「蓮池」「生出わっ口」について調べたことを、模造紙でまとめる。
いかす	8 まとめたことを表現し、アドバイスし合う。(発表練習・総合発表会予行) ⑰⑱ 9 総合発表会 ⑲ 10 学習を振り返る ⑳	○パワーポイントをもとに、発表練習をする。また、発表したことをもとに、アドバイスを出し合う。 ○アドバイスを受けて、よりよい発表にできるように話し合う。 ○保護者や地域の方々に、発表する。 ○友達や先生、地域の方々からの評価と合わせて、学習の振り返りを行う。 

## (3) 考察

地域素材を生かし、またそれに関わる地域の先人の方々と関わる活動をくり返し行ったことにより、多くの成果が見られた学習となった。

## 【成果と課題】

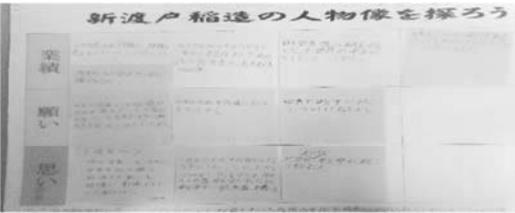
- ドキュメンテーションの作成など授業展開の工夫を行うことにより、主体的に考え課題に関わろうとする態度が育ってきた。
- 児童の興味・関心にそってテーマ・課題を設定したり、インタビュー活動を行なったりすることで主体的に地域や、地域の方々に関わろうとする意識が育ってきた。
- ▲児童同士が、関わり交流する授業展開の手立ての工夫。
- ▲グループでの活動の中においても、一人一人が自己の考えをまとめ、構築、発展させていく手立ての工夫。

単元名	【総合】ふるさと生出に根ざして ～地域の先人 石川啄木・新渡戸稲造から学ぶ～ 【関連教科】総合的な学習の時間・学級活動	学年	5・6年
-----	---	----	------

## (1) ねらい

- ・盛岡市や生出の先人の功績や考え方から、自己の生き方を見つめ、自分の夢や理想に向かって主体的に行動する心や態度を養う。

## (2) 指導計画 (55 時間)

	主な学習内容・活動	○指導の手立て・留意事項等
導入	1 新渡戸稲造について調べる。 (先人記念館見学) 2 新渡戸稲造の生き方から、自分の考えをもつ。	○資料「盛岡の先人」を活用し、「新渡戸稲造」の主な業績と思いをまとめる。 
展開	3 石川啄木について調べる。 ① 修学旅行事前学習 ② 土方・啄木浪漫館 函館市文学館 (修学旅行・函館) ③ 啄木の生き方のまとめ 4 啄木の生き方や考え方から、自分の考えをもつ。 5 先人の生き方に対する自分の考えをまとめる。 ・生活・総合発表会 【石川啄木・新渡戸稲造】	○玉山の先人として「石川啄木」を取り上げ、修学旅行事前学習や見学を通して、学びを深める。  ○様々な先人の生き方を比較・分析しながら生き方をとらえさせる。  
終末	7 自分にできることを考える。 8 自分の考えや思いを実践活動に生かす。 ・発信活動 ・ボランティア活動 等 9 単元を振り返り、自己の変容をとらえる。	○今の自分にできることを考える際には、先人の生き方のどこに共感したのか根拠を明らかにして、考えさせる。 ○自己の身近な事柄に目を向けさせ、主体的に自分の行動を計画・修正できるよう支援する。 ○自己の変容がとらえられるように、友達や先生、地域の方々等の他者評価をいただき、自己の変容を客観的にとらえられるようにする。

## (3) 考察

地域素材を生かし、またそれに関わる地域の先人の方々と多く関わる活動を行ったことにより、多くの成果が得られた学習となった。

## 【成果と課題】

- 1学期に新渡戸稲造、2学期に石川啄木について調査を進め、この2名の先人の業績や人物像、生き方、考え方などについて、自分なりに考察し、資料に自分の言葉でまとめることができた。
- 地域の先人から学んだことを生かして、自分の生き方に生かしていきたいことを一人ひとりが考え、生活・総合発表会で発表することができた。
- 今年度は生出の先人についての調査活動は行えなかったが、2年後の閉校も踏まえて、次年度は、生出の先人をテーマにして調査活動を進めたい。

単元名	【総合】ふるさと生出に根ざして ～生出の先人から学び、未来へつなぐ～ 【関連教科】総合的な学習の時間・学級活動	学年	5・6年
-----	---	----	------

## (1) ねらい

- ・生出の先人の功績や考え方から、自己の生き方を見つめ、自分の夢や理想に向かって主体的に行動する心や態度を養う。

## (2) 指導計画 (40 時間)

	主な学習内容・活動	○指導の手立て・留意事項等
導入	1 フィールドワークで見学したことを振り返る。 	○フィールドワークで見学したことや、見学先で聞いた話を基にして、分かった事を交流する。 
展開	2 生出に着目し、ふるさと生出を守り続けた人々やその功績を探る。   3 調べて分かったことを資料にまとめ、表現する。 4 自分にできることや願いを構築する。	○過去の先輩たちが調査してまとめた資料、学校に残されている文献、インターネット等を活用して、調査活動を進める。 ○岩手大学教育学部の学生の支援を受けながら、調べたいことを整理して、地域の人々に取材、質問して、理解を深める。 ・インタビュー ・電話取材 ・アンケート ○調査内容をロイロノートを活用して、資料として作成する。 ○既習の学びを生かし、自分自身の考えをもつ。 ○地域社会の一員として、取り組んでみたいことを考える。
終末	5 資料にまとめた内容を発表し、アドバイスし合う。 6 生活・総合発表会で発表する。 (予行・本番) 7 単元を振り返り、自己の変容をとらえる。	○発表したいことをもとに、アドバイスを出し合い、そのアドバイスを受けて、よりよい発表になるように、話し合う。 ○保護者や地域の方々に、発表する。 ○学習の振り返りをする。

## (3) 考察

地域素材を生かし、またそれに関わる地域の先人の方々と多く関わる活動を行ったことにより、多くの成果が見られた学習となった。

## 【成果と課題】

- 自分のテーマを決めて、地域の先人の業績や生き方、考え方などについて、自分なりに考察し、資料に自分の言葉でまとめることができた。
- 地域の先人から学んだことを生かして、地域のために取り組みたいことや自分の生き方に生かしていきたいことを一人ひとりが考え、生活・総合発表会で発表することができた。
- 来年度は生出小学校の閉校も踏まえて、さらなる地域貢献を意識した学習活動を仕組んでいきたい。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・先人教育の視点を、各教科及び生活・総合的な学習の時間の指導に取り入れ、関連付けた計画づくりを行うことで、発達段階に応じた学習展開を行うことができた。
- ・「先人たち」の生き方や考え、業績を学ぶことを通して、理解を深めるとともに、自分の将来について考える機会となった。
- ・総合的な学習の時間では、より身近な地域の自然や人々と関わることで、学習課題を自分事としてとらえ、地域の将来を想像したり、自分ができることを考えたりすることを通して、地域の自然や人々への愛着を感じ、大切にしていきたいという思いが高まった。
- ・岩手大学教育学部の総合学習支援学生との関わりも、近い自分の将来像としてとらえることができた。

### (2) 課題

- ・各学年の指導内容や身につけさせたい力をより明確にした、指導計画作成を推進する。  
(小中学校9年間を見通した指導計画の作成)
- ・各学年の実践を共有し、指導資料の蓄積を図る。

【廊下掲示 先人コーナー】



【総合展示室 学習資料掲示】



【総合展示室 学習資料コーナー】



【委員会活動 先人啄木クイズラリー】



【岩手大学教育学部の学生による総合学習支援】



令和5年度  
「盛岡の先人教育」実践事例

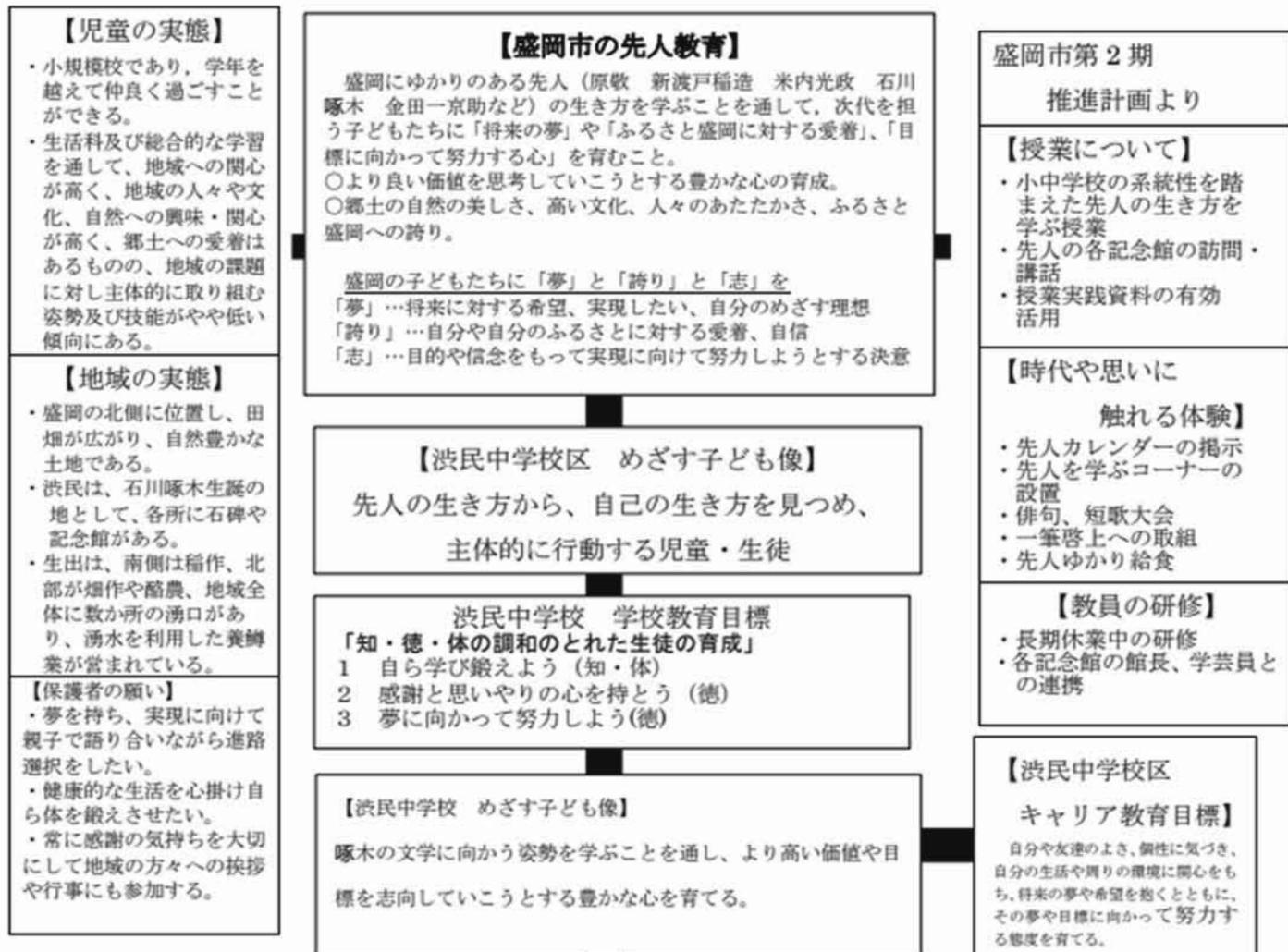
＜研究主題＞

文学に向かう啄木の姿勢を学ぶ  
ことを中心にして、先人の生き  
方からより高い価値や目標を志  
向していこうとする豊かな心を  
育てる。

～小中連携を行い9年間の  
系統的な指導を図っていく～

盛岡市立渋民中学校

## 渋民中学校区【渋民中学校】 先人教育全体計画



	各教科・特別の教科道徳		総合的な学習の時間		特別活動
1年	国語・短歌・俳句作り 書写・啄木短歌の鑑賞 音楽・合唱『ふるさとの風』	ルへの応募 ・俳句・短歌などの作品コンク	啄木学習 表現活動	協力 ・啄木祭や関連行事への参加や	・啄木かるた会への取り組み
2年	国語・短歌・俳句作り 書写・啄木短歌の鑑賞 音楽・合唱『ふるさとの風』		啄木学習 表現活動		
3年	国語・短歌・俳句作り 書写・啄木短歌の鑑賞 音楽・合唱『ふるさとの風』		啄木学習 表現活動		

関連する活動	学級経営	生徒指導	課外活動	ボランティア教育
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢に向けた進路の実現</li> <li>・共に成長する学級づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやり、感謝の気持ちを持つ。</li> <li>・自己肯定感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群読「風の吹くところ」</li> <li>・群読「アテルイ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啄木マラソン歓迎ゴミ拾い。</li> </ul>

学 校 名	盛岡市立 渋民中学校	生徒数	150 名
研究主題	文学に向かう啄木の姿勢を学ぶことを中心にして、先人の生き方からより高い価値や目標を志向していこうとする豊かな心を育てる。 ～小中連携を行い9年間の系統的な指導を図っていく～		

### 1 研究主題設定の理由

学区には、石川啄木の故郷として、啄木記念館が近くにある。啄木が育った宝徳寺もあり歌碑も多く、街を歩けば沢山の啄木短歌を眼にすることができる環境にある。また、啄木祭や啄木の里ふれあいマラソンなどの啄木関連の様々な行事が行われている。

啄木は、近代の歌人として現在も多くの愛好者がいる日本を代表する文学者である。また、17 カ国でその書籍が翻訳されていることから啄木の作品がいかに多くの人を感動させてきたかが伺える。

本校においては、地域の先人である啄木について長年継続して学習を行ってきた。短歌を校内の目に触れやすい場所に掲示し、図書委員会主催の啄木かるた大会を毎年実施するなど、普段から短歌に親しむことが多い。しかし、その短歌の意味や魅力、歌人以外の啄木の姿についてはあまり取り上げてこなかった。啄木の生き方については、賛否両論あるところではあるが、いろいろな面から啄木をとらえ、優れた点を知り学ぶことで、盛岡市の先人教育の目標である『先人の生き方を学ぶことをとおして、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」「目標に向かって努力する心」を育むこと』と合致すると考え、本主題を設定した。

### 2 研究の目標

- ・石川啄木の作品や啄木の文学に向かう姿勢を学び、より高い価値や目標を志向していこうとする豊かな心を育てる。
- ・石川啄木を育んだ郷土について、自然の美しさや人々のもつ温かさを知り、故郷への誇りをもつ。
- ・石川啄木以外の盛岡先人の生き方を学び、自分の将来の生き方を考える場面とする。

### 3 研究の基本的な考え方

#### (1) 本年度の重点

- ・啄木の短歌を取り入れた群読劇を表現活動の中心に据え、啄木祭、渋中芸術祭、文化祭などの練習・発表を通し内容の向上を目指す。
- ・啄木かるた大会を実施し、啄木の短歌に親しむとともにその理解にも努める。
- ・啄木以外の盛岡の先人についても触れる機会を多くする。

#### (2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・定期的な担当者会議を開き、研究の方向性を確認する。
- ・ブロック研を利用した先人学習の授業を参観し合うとともに、「先人教育を通じて目指す子供像」、「先人教育全体計画」とその具体について各校全教職員で共通理解を図る。
- ・9年間を見通した系統的な指導の道筋を確認し、さらに推し進めていく。

## 4 取り組みの概要

単元名	【総合的な学習の時間】 啄木かるた大会	学年	全学年
-----	------------------------	----	-----

## 1 ねらい

- (1) 啄木かるたを通して、啄木の短歌に親しみ先人の理解を深める。  
 (2) 班や学級で協力して行事を楽しむ。

## 2 時間、場所

5、6時間目 渋民中学校 体育館

## 3 運営

学年執行部 + 後期図書委員



## 4 日程

2月 15日 (水)	学年執行部、図書委員、原案確認。(昼休み、理科室)
2月 16日 (木)	学級へ提案。(朝の会、図書委員) 放課後：かるた使用確認 ※3年生が使ったものを使用。
2月 21日 (火)	学級にかるた配布。1セット。(昼休み、練習可) ※物品管理：学年執行部、図書委員
2月 24日 (金)	学年執行部、図書委員 物品確認&打ち合わせ(放課後)
2月 27日 (月) 5・6校時	学年啄木かるた会 実施 ※昼休み、学研執行部、図書委員 会場準備

## 5 開会行事 進行：学年執行部

1 開会行事	2 閉会行事
(1) 開会の言葉	(1) 開会の言葉
(2) 学年委員長から	(2) 講評：先生
(3) 競技上の注意：図書委員	(3) 結果発表：図書委員
(4) 選手宣誓：代表生徒2名(学執)	(4) 感想発表：各学級1名
	(5) 閉会の言葉

## 6 教師 役割担当

【審判】 … 学年執行部、図書委員

【進行補助】 …○○先生、○○先生

【結果記録】 …○○先生、○○先生

【写真・記録】 … 先生方全員

## 7 審判の役割

(ア) カードの配置確認

(イ) 旗で本部、読み手にサインを出す 白旗…進行可  
赤旗…進行不可

(ウ) ルール違反、マナー違反への注意



## 【考察】

小学校から取り組んでいる行事なので、中学校では啄木の短歌を暗記している生徒も多い。実際、上の句の最初を読んだだけでカルタを素早く取りに行ける生徒が多い。全員が夢中になって取り組む渋民中学校の行事となっている。

単元名	【道徳】 日本一の先生 富田 小一郎 (とみた こいちろう)	学年	3 学年
-----	--------------------------------------	----	------

## 1 ねらい

真理や真実を求めつつ、生きることの意味を見だし、目標をもって、よりよく生きようとする心情を育てる。

【希望と勇氣、克己と強い意志】

## 2 資料について

### (1) 内容

自らも学費に苦勞しながら教師となった富田小一郎は、盛岡中学校の教師として厳しくも温かく生徒を指導し、教え子たちからは「慈父」と慕われた。やがて、商業教育に携わり地域の産業に貢献する人材を育てることに教育者としての使命を感じ、学校設立の資金を得るために漁業に従事するなどあらゆる努力を惜しまなかった。その努力の根底には若者の将来を応援したい、男も女も社会で自立できるだけの力をつけてやりたいという強い気持ちが常にあったからである。晩年多くの教え子に囲まれた「日本一の先生」の熱い思いとひたむきな行動を追体験しながら、価値に迫らせたい。

### (2) 指導上の留意点

- 導入では、「よく叱る師ありき」の短歌から、作者であり生徒である石川啄木の心情を考え、教師富田小一郎作に対する、啄木のかかわりの深さや愛着の気持ちを十分に想像させるようにする。
- 展開では小一郎の行動や考え方を追体験しながら、教育者として若者の将来を支えようとする小一郎の使命感、どんな苦勞があっても揺るがない強い意志をとらえさせる。そして、自分の人生をかけて理想を実現しようとする小一郎の生き方を感じ取らせたい。
- 終末では、小一郎の生き方から学んだ価値について書く活動、話し合う活動を取り入れて、自分自身を振り返らせ、生徒にも志をもって前向きに生きようとする気持ちを確認させたい。

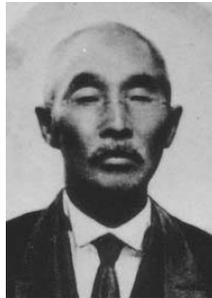
## 3 他の教育活動との関連

### (1) 総合的な学習の時間

- ・群読劇「風の吹くところ」

### (2) 特別活動

- ・進路学習との関連を図る。



## 4 出典及び参考文献

- ・第42回盛岡市先人記念館企画展パンフレット 「富田小一郎 日本一の先生」

## 5 展開

### (1) 事前の教育活動

「石川啄木」の学習を通して、富田小一郎の業績について結びつかせ、興味・関心をもたせる。

### (2) 本時の展開

過程	主な学習活動と発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点 (■)
導入	1 「よく叱る師ありき」の短歌を読んで、「師」の人物像を想像する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叱られながらも、愛着をもっていたのだろう。</li> <li>・啄木と先生とのかかわりが深かったのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「よく叱る師ありき」</li> <li>・短歌から、啄木の気持ちを想像させる。</li> </ul>

<p>展 開</p>	<p>2 資料を読んで話し合う。</p> <p>○盛岡中学校の生徒にとって、小一郎はどのような先生だったのだろうか。</p> <p>○経験のない漁業を行ってまでも、学校設立の資金を得ようとした小一郎をどう思うか。</p> <p>○漁業に失敗し、貧しい暮らしをしながらも若者を指導し続けたのは、どういう気持ちからだろう。</p> <p>◎2つの学校が創立したとき、小一郎はどのようなことを考えただろうか。</p> <p>○たくさんの教え子に囲まれた謝恩会を、新聞が「日本一」という見出しで取り上げたのはなぜだろうか。また、小一郎はどのような気持ちだっただろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しいが、生徒思い。</li> <li>・親身になってくれる</li> <li>・父親のような存在。</li> <li>・意志の強さを感じる。</li> <li>・生徒のために行動できる情熱に敬服する。</li> <li>・たとえ困難でも、挑戦したことがすばらしい。</li> <li>・将来のある若者の力になりたい。</li> <li>・自分はどのような状況でも彼らの指導を続けよう。</li> <li>・諦めなくてよかった。</li> <li>・これで商業教育を充実させることができる。</li> <li>・若者を応援し続けたい。</li> <li>・多くの優秀な人材を育て、今なお慕われているから。</li> <li>・教師をやってきてよかった。</li> <li>・教え子の成長がうれしい。</li> </ul>	<p>■写真 「柔道部」</p> <p>「慈父」と表現された意味を考えさせる。</p> <p>■写真 「三立丸」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険と隣り合わせであること、不漁もありうることなど、困難な状況を理解させ、それでも決心した点を押さえる。</li> <li>・小一郎の使命感を、生徒の言葉で十分に語らせるようにする。</li> <li>・小一郎が「女子教育の父」と呼ばれていることにも触れる。</li> </ul> <p>■写真 「謝恩会」</p> 
<p>終 末</p>	<p>3 把握した価値と自己とのかかわりを考える。</p> <p>○小一郎の生き方から、あなたが大切だと考えたことをノートに書いて話し合おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想や志をもって将来に向かって努力したい。</li> <li>・あきらめずに夢や理想を大切にしたい。</li> </ul>	

(3) 事後の教育活動

総合的な学習の時間等で、岩手の先人について調べる学習活動を行う。

(4) 生徒の振り返り

今日の授業を受けて、岡田小一郎先生の子供も思いで、今の盛岡の教育や商業を作ったすばらしい人物だと知ることができました。先人達もすばらしい先生に学んだからすごい人になれたのだと思います。

自分がやりたいことは最後までやることを大切にしたいです。苦しいことがあっても頑張ることが大切だと思いました。

単元名	【課外活動】 群読劇 「風の吹くところ」 ～私は忘れない あなただけは忘れない～	学年	全学年
-----	--	----	-----

### 【渋民中学校の群読について】

渋民中学校群読劇は、平成 25 年渋民中学校統合 30 周年記念式典での演目『アテルイ』に始まった。

平成 26 年、石川啄木生誕 130 年を記念し、新しく啄木の短歌や詩を取り入れた群読劇『風の吹くところ』を創り出した。この『風の吹くところ』は、平成 27 年の啄木祭、文化祭、県中文祭、渋民公民館 20 周年記念式典で、次の平成 28 年は啄木祭、国際啄木学会盛岡大会で発表を行ってきた。その後、一時働き方改革の視点から活動を中断していたが令和 3 年の全国中文祭への出場をきっかけに活動を復活させた。その後、取り組み続けていた『アテルイ』と 2 つの演目を毎年文化祭、啄木祭、渋中芸術祭等で発表し続けてきた。

### 【構成イメージ】

「ふるさとの山に向かいて」、「ふるさとの風」の 2 曲を中心に据えそれに啄木の短歌を組込んだ群読や曲のイメージを表現したダンスを取り入れている。

十四歳の少女ログ「自分自身の存在・生きる目的を見失いかけている少女」と生きることを意味と一緒に探すために旅に出る少年ファンとのふれあいを通して、ログが「生きることの意味」「大切なもの」「自分の帰るべきところ（本当の居場所）を見つけ出す」といったストーリー。幻想的な「深い海の底」をイメージした時空を超えた不思議な世界で物語は進んで行く。

### 【あらすじ】

少女「ログ」は、寂しくもどこか明るいある場所に迷い込んでしまった。そこは記憶を失くしてしまった人がさまよう場所。その世界で、ある少年「ファン」と出会う。その出会いをきっかけに、自分とは何か、自分の居場所はどこにあるのかを次第に思い出していく。・・・

### 【キャスト】

ログ 〈迷い人〉、ファン 〈探し人〉、DARK 〈支配者〉  
 アイ 〈愛する人〉、メモリー 〈思郷の人〉、ブルー 〈悲しき人〉  
 ペイン 〈痛み人〉、オンリー 〈孤独の人〉、ミゼラ 〈哀れ人〉  
 フロウ 〈流離い人〉、リブ 〈苦渋の人〉、ロス 〈失意の人〉  
 クロス 〈背負い人〉、アトラス 〈耐える人〉、シャイン 〈闇の人〉  
 プリズム 〈屈折の人〉、影人 〈失意の人〉、水の精 〈漂い人〉

### 【脚本】（一部抜粋）

#### はじめり「Deep Blue」

深海をイメージさせる青の世界。

DARK 「青春とは、波静かなる春の浦回の真砂の上に立てられた楼閣の様なものである。

怒り立つ濤に寄せられては、刻々に砕け砕けて、跡かたもなき黒潮の中に葬られて行く。」

(影人) 「青春とは、波静かなる春の浦回の真砂の上に立てられた楼閣の様なものである。

怒り立つ濤に寄せられては、刻々に砕け砕けて、跡かたもなき黒潮の中に葬られて行く。」

(石川啄木の日記より)

フロウ 「石をもて追はるごとく/ふるさとを出でしかなしみ/消ゆる時なし」

(影人) 「ふるさとを出でしかなしみ/消ゆる時なし」



- メモリー 「ふるさとの山に向ひて/言ふことなし/ふるさとの山はありがたきかな」  
 (影人) 「ふるさとの山はありがたきかな」  
 オンリー 「東海の小島の磯の白砂に/われ泣きぬれて/蟹とたはむる」  
 (影人) 「われ泣きぬれて/蟹とたはむる」  
 シャイン 「さいはての駅に下り立ち/雪あかり/さびしき町にあゆみ入りにき」  
 (影人) 「さびしき町にあゆみ入りにき」  
 アトラス 「かの時に言ひそびれたる/大切な言葉は今も/胸にのこれど」  
 (影人) 「言葉は今も胸にのこれど」  
 (影人) 「はたらけどはたらけど猶わが生活/楽にならざりちつと手を見る」  
 (影人) 「ちつと手を見る」

### 居場所・・・どこかわからない場所

中略・・・不思議な世界に迷い込み驚くログの場面

### 合唱「ふるさとの山に向ひて」(作詞 石川啄木 作曲 新井満)

歌とダンス(水の精たち) (ダンス振付 笹生恵理 中村涼子)



- (ログ・ファン 影人たち) ふるさとの山に/山に向ひて/言ふことなし/ふるさとの山はありがたきかな  
 やはらかに柳/柳をめる/北上の岸边目に見ゆ/泣けとごとくに  
 かにかくに/浜民村は/恋し恋し/恋しかり  
 おもひでの/おもひでの山/おもひでの川  
 ふるさとの・・・

### 深海「ファンとの出会い」

中略・・・ファンとログが「大切なもの」「自分の居場所」を探す旅をしている。DARK が現れ、思い出や記憶はすべて幻。何もかも置いていけば楽になるとログに話しかける場面。

DARK の独唱「病のごと」 (詩 石川啄木 作曲 高田三郎)

中略・・・彷徨うことに疲れたファンと「大切なもの」を思い出したログの心が触れ合い、ログは「自分と向き合うようになっていく。」

### 「一握の砂」

- ペイン 「己が名をほのかに呼びて/涙せし/十四の春にかへる術なし」  
 ミゼラ 「潮かをる北の浜辺の/砂山のかの浜薔薇よ/今年も咲けるや」  
 クロス 「いのちなき砂のかなしさよ/さらさらと/握れば指のあひだより落つ」  
 ファン 「大といふ字を百あまり/砂に書き/死ぬことをやめて帰り来たれり」  
 シャイン 「頬につたふ/なみだのごはず/一握の砂を示しし/人を忘れず」  
 ロス 「みぞれ降る/石狩の野の汽車に読みし/ツルゲエネフの物語かな」  
 一握の砂 「不来方のお城の草に寝ころびて/空に吸はれし/十五の心」  
 メンバー

ログの独唱「不来方の」 (詩 石川啄木 作曲 高田三郎)

- ログ 不来方のお城の草に寝ころびて/空に吸はれし/十五の心  
 不来方のお城の草に寝ころびて/空に吸はれし/十五の心

## 合唱「十四」

BGM

合唱[十四] (詩 石川啄木 作詞・作曲 吉田真央 監修 山本玲子)

(全員) 己が名をほのかに呼びて

涙せし

十四の春にかへる術なし

流れゆく雲に 鼓動を覚えながら 吹く風の色に 季節を感じて

いつのまにか僕は 大人になっていた まだ何も 見つけていないのに

僕の名前を呼べば 甦ってくる記憶

懐かしいあの時に もう帰れはしない

十四の春に描いた 輝いている未来 自分の今の姿 重ねて

負けないで 逃げないで 目の前の苦しみに

自分だけが たどりつく 世界がある

真っ直ぐに 思うように 前に進んで

この春は 一度だけだから A

流した涙は 輝きを放ち

力強く 羽ばたくだらう

負けないで 逃げないで 目の前の哀しみに

君に寄り添ってくれる人がいる

笑い合い 語り合い 光を見つけよう

大切な この春は たった一度だけだから

己が名をほのかに呼びて

涙せし

十四の春にかへる術なし

略・自分の居場所でそれぞれ生きてゆくログとファンの姿

END

出典 | 石川啄木「一握の砂」「悲しき玩具」

佐木知花「Deep Blue 深海」

脚本・演出・監督 中村重高



## 【考察】

11年前から取り組み始めた群読であるが、年々演技が進化をしていると感じる。生徒たちは、先輩たちの群読を見て、次の年はその演技を追い越すことを目標に取り組み続けているからだと思う。

## 5 成果と課題

## 成果

- ・ 渋民中学校では先人教育において、石川啄木を中心に取り組んできた。ただ歴史や短歌を学ぶだけでなく群読という演劇を創り出しその内容を少しずつ変化させ、引き継いできている。表現活動は生徒をこれほど変えるのかと感心するほど生徒の成長に大きく貢献していると感じる。
- ・ 啄木カルタは、小学校から9年間取り組んでいる。小中連携の成果を感じる行事になっている。

## 課題

- ・ 群読やカルタ大会等で啄木の短歌に慣れ親しんできている。しかし、啄木の短歌に込められてる意味については中学生が理解するには難しいところがある、そこまで理解させるのはなかなかできていない。
- ・ 渋民という地域柄、啄木について取り組むことは多いが、それ以外の先人についてはなかなか取り組めていない状況である。



令和5年度  
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

盛岡の先人の「生き方」「考え方」  
から、自己の生き方を見つめる児  
童の育成

～全員参加の授業づくりを  
通して～

盛岡市立見前小学校

子どもの実態

- 人、もの、自然との直接体験が不足している。
- 自ら課題を見つけ、活動を進めることは、不十分である。
- 表現力やコミュニケーション力が十分に育っていない。

学校教育目標

- 思いやりのある子ども
- 進んで学ぶ子ども
- たくましい子ども

盛岡市教育ビジョン

多くの先人を育てきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び、共に未来を創る人

盛岡市先人教育の目標

- 盛岡の先人の生き方を学ぶことを通し、より高い価値を志向していこうとする豊かな心を育てる。
- 多くの先人を育てきた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつ温かさを知り、ふるさと盛岡への誇りをもつ。

めざす子ども像

1・2年

- 身近な地域の自然や生活人々とのかかわりに関心をもち、親しみをもつ子ども

3・4年

- 郷土の発展に尽くした人に関心をもち、郷土の文化と伝統を大切にしようとする心をもつ子ども

5・6年

- 「盛岡の先人」の生き方に学び、それを育んだ郷土に誇りを感じ、郷土を愛する心をもつ子ども

教育課程等における位置づけ

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
教科			【社会】 ・もっと知りたいみんなのまち(4月～7月) ・さぐってみよう昔のくらし(2月)	【社会】 ・郷土の開発(10月) ・岩手県の様子(浄法寺町)(3月)		【社会】 ・近代国家への歩み ・戦争から平和へ(9・10月)
生活・総合	・こうえんたんけん(6月・10月・1月) ・動物こうえんにいこう(9月)	・どきどきわくわくまちたんけんたい(5月) ・すてきな3年生になろう(3月)	・さんさ踊り名人になろう(4月～7月) ・見前のじまんの人々をさがそう(8月～12月) ・ぼくもわたしもお話おなべさん(1月～3月)	・やさしい町やさしい人バリアフリーとわたしたちの生き方(1月～3月)	・一筆啓上 ・見小150年の歴史を探ろう ・先人に学ぶ(1月～3月)	・東北の歴史を学ぼう(4月～7月) ・一筆啓上
道徳	・にちようびのさんぽみち(郷土愛)(10月)	・けんじのいちごばたけ(自然愛・動物愛護)(5月) ・さんさの音が聞こえるよ(郷土愛)(6月)	・ふるさといいとこさがし(郷土愛)(9月) ・まけるものか(不撓不屈)(12月)	・岩手に盲学校を(勤労・社会への奉仕)(2月)	・親から子へ、そして孫へ(郷土愛)(9月)	・世界に認められる学者に(不撓不屈)(9月) ・白神山地(郷土愛)(12月)
その他	・先人カレンダーの掲示 ・先人給食メニュー(2月)、郷土食メニュー(年3回)					

近隣中学校との連携

家庭・地域との連携

学校名	盛岡市立見前小学校	児童数	507名
研究主題	盛岡の先人の「生き方」「考え方」から、自己の生き方を見つめる児童の育成 ～全員参加の授業づくりを通して～		

## 1 研究主題設定の理由

盛岡市教育振興計画における「めざす市民像」は、「多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」である。この「めざす市民像」に迫るために、盛岡の先人たちを中心として、盛岡の歴史や文化、自然や風土を生かした盛岡らしい教育の具現化を図るものとして「盛岡の先人教育」推進計画を策定し、推進を進めることとしている。

本校は、学校教育目標を「思いやりのある子ども・進んで学ぶ子ども・たくましい子ども」とし、教育活動を行っている。盛岡の先人や郷土の発展に尽くした人の生き方や考え方について学ぶこと、地区の豊かな自然や、地域の方々とのふれあいを通して、自分自身を見つめ直し、自己の生き方について考える子どもを育成することができると思う。

令和5年度は本校創立150周年記念の年にあたり、全校で見前小学校の歴史に触れる機会に恵まれ、自分たちの学校の歴史を築いてきた先輩方に関心を持ち、学校を大事にしようとする気持ちをもつ機会を得た。学校を愛し、地元を愛し、盛岡を愛し、岩手を愛する児童を育み、自己実現に向かってたくましく進んでいって欲しいという願いを込め、本主題を設定した。

## 2 研究の目標

- (1) 盛岡の先人の生き方や考え方を学び、自分の生き方に生かしていこうとする豊かな心を育てる。
- (2) 地域のために尽くしてきた先人の姿を学び、郷土への誇りをもつ。
- (3) 自分たちの学校のために尽くしてきた先輩方の想いを知り、愛校心をもつ。

## 3 研究の基本的な考え方

### (1) 本年度の重点

- ・150年間の見前小学校の歴史を知る活動を通して、周囲の方に感謝の気持ちをもたせたり、愛校心を育んだりする指導を行う。
- ・様々な行事に向かう学習や取組において、先人教育の視点で学習指導を行う。
- ・見前中学校区での小中9年間の系統性を大切にしながら小学校段階での実践の充実を図る。

### (2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・盛岡市の先人教育について教職員の研修を行う。
- ・小中9年間を見通した実践と系統表の改善を図る。
- ・実践を交流する。

### (3) 取組の内容

- ・全員が興味関心をもって参加する授業実践をする。
- ・先人コーナーの充実を図る。(図書室・ろう下掲示)
- ・行事や作品応募と関わらせる。(創立150周年・陸上記録会・連合音楽会・一筆啓上)

## 4 取組の概要

単元名	〈生活科〉 みんなの こうえんで あそぼう	学年	1 学年
-----	-----------------------	----	------

## (1) ねらい

公園の遊具や自然物を使ってみんなで遊び、公園はいろいろな人が使う場所であることや、利用方法やきまりが存在していることなどに気付くとともに、熱中症対策や手洗いなど、病気の予防に努めることができるようにする。

## (2) 指導計画

学習段階	時数	学習内容
春の公園遊び	第1時	・公園でしたいことを話し合う。
	第2時	・安全な歩き方を確かめながら道路を歩いて公園に向かう。
	第3時	・ルールやマナーを守って遊ぶ。
	第4時	・公園で楽しかったこと、気付いたことを記録する。
秋の公園遊び	第1時	・公園でしたいことを話し合う
	第2時	・安全な歩き方を確かめながら道路を歩いて公園に向かう。
	第3時	・公園で木の葉や木の実を拾って遊ぶ。
	第4時	・集めた木の葉や木の実でおもちゃを作る。
	第5時	・作ったおもちゃで遊ぶ。

## (3) 活動の様子

〈都南中央公園で遊ぼう〉

公園に行き、グループで遊んだり、みんなで遊んだりする。

- ・ルールやマナーを守って、周りの人に配慮しながら公園の遊具や自然物を利用して楽しく遊ぶ活動を行った。
- ・公園で気付いたことや楽しく遊んだことを友達と教え合う活動を行った。



〔春の公園で自然と触れ合う〕



〔木の実で作ったおもちゃで遊ぶ〕



## (4) 考察

- ・公園で遊ぶ際に、親子連れの利用者がいたときには、小さな子が驚かないようにそっと近くを通る気遣いをしたり、地域の方に進んであいさつをしたりすることができた。
- ・季節の花を見付けたり、虫やかえるなどの生き物を見つけたりしながら、自然に触れる機会をもつことができた。
- ・友達と楽しく遊び、お互いに楽しかったことを伝え合うことで、仲間と一緒に活動する楽しさを体感することができた。

単元名	〈生活科〉 単元1：大きくなあれ わたしの野さい 単元2：もつとなかよし まちたんけん 単元3：みんなでつかう まちのしせつ	学年	2 学年
-----	--	----	------

## (1) ねらい

- ・育てている野菜の世話の仕方を詳しい人に聞き、大切に育てようとする事ができる。
- ・地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所や人に親しみをもち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとする事ができる。

## (2) 指導計画

学習段階	時数	学習内容
6 月	1	単元1：「野さいのせわをしよう」 野菜名人として、地域にある農園の方を学校に招き、野菜の育て方について話を聞く。
9 月	3	単元2：「まちの人に聞きに行こう」 行ってみたい地域のお店や施設等へグループごとに訪問し、中の様子を見たり仕事の内容について話を聞いたりする。
10 月	2	単元3：「図書かんのことを聞いてみよう」 地域にある都南図書館を訪問し、読み聞かせを聞いたり利用の仕方などについて話を聞いたりする。

## (3) 活動の様子

野菜名人には、あげる水の量や脇芽の取り方を教えてもらった。

まち探検では、地域にある交番や消防署、お店などを訪問し仕事の内容や、どんな思いで働いているか質問をした。

図書館探検では、児童書コーナーで好きな本を読んだり、公共の場所でのルールや多様な人々が利用しやすいような工夫があることを教えてもらったりした。



〔野菜名人に話を聞く様子〕



〔図書館探検の様子〕



〔まち探検の様子〕

## (4) 考察

- ・野菜名人に野菜の育て方のコツを教えてもらうことで、長期間継続した世話を工夫しながら意欲的に行うことができた。まち探検では、地域には様々な仕事をしている人がいることを知り、どの人も地域の人のことを想って働いていることに気付くことができた。図書館探検では、地域に楽しい施設があることを知り、今度、本を借りてみたいという思いをもつことができた。
- ・どの活動でも元気よくあいさつをしたり、進んで質問をしてメモをとりながら話を聞いたりすることができた。直接、地域の人と触れ合っって学習することで、地域への思いや願いを実感することができ、生活科の学習を通して、先人教育の素地を養うことができた。

単元名	(総合的な学習の時間) さんさおどり名人になろう	学年	3 学年
-----	--------------------------	----	------

## (1) ねらい

地域に伝わる「三本柳さんさ踊り」について調べ、さんさ踊り名人になろう。

## (2) 指導計画

学習段階	時数	学習内容
知る	2時間	【三本柳さんさ踊りを見て、知ろう】 学習計画を立てる 自分が調べたいことを決める。
調べる	3時間	【調べよう】 自分の調べたいテーマに沿って調べる。 (三本柳さんさ踊り保存会の会長さんからの話、資料等)
まとめ	2時間	【まとめよう】 自分が調べたことをまとめる。
知らせる	2時間	【知らせよう】 調べたことを集めて、班でさんさ新聞をつくる。
	1時間	発表する。

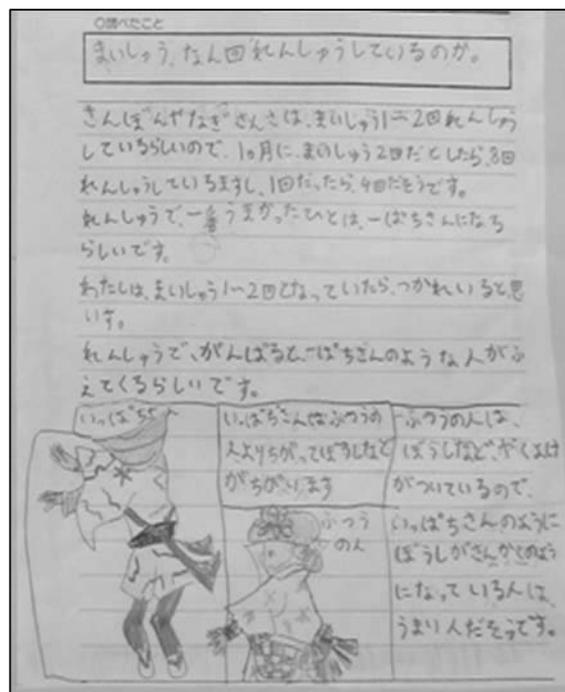
## (3) 活動の様子

運動会前の「伝統芸能鑑賞会」で見た三本柳さんさ踊りについて、「もっと知りたいことや調べてみたいこと」などをたくさん出し合った。

その時に出了たものを大まかに「歴史」「衣装」「踊り方」「三本柳さんさ踊り保存会」と分け、三本柳さんさ踊り保存会の方にお話ししていただいた。教えていただいた事にさらに質問を加えるなど、意欲的な姿が多く見られた。

まとめる活動では、調べたことをそれぞれのテーマごとにまとめた。その際に、自分が調べたことと友達が調べたこととの関連性を考えて並べ替えたり、話し合いでより詳しく思い出したことを付け加えたりして、グループでの活動のよさを感じているようだった。

振り返りでは、地域に受け継がれてきた伝統と、現代まで伝えてきた先人の努力について触れる児童が多く見られた。また、「もっと上手に踊れるようになりたい」、「まだ知らない踊りを知りたい」という「これから」の事について言及している児童がおり、次年度に運動会で「三本柳さんさ踊り」を踊ることへの意欲をもつ児童も多く見られた。



〔作成したまとめ新聞〕

## (4) 考察

- ・三本柳さんさ踊りについて自分の課題をもち、三本柳さんさ踊り保存会の方から聞いた話の中から必要なことを選びとり、情報をまとめる力をつけることができた。
- ・三本柳さんさ踊りに込められた意味や歴史、それを受け継ぐ保存会の方々の願いなどを知ることにより、「三本柳さんさ踊り」に対する見方が変わった児童が増えた。それと同時に、自分たちも見前の町に伝わる踊りの担い手であることへの「意識の芽生えを感じる」ことが出来た。
- ・三本柳さんさ踊り保存会の方からお話を聞く際に、何が大切で、何をメモしたらよいかわからない児童も見られた。支援が必要な児童へ、自己課題を明確にする指導が必要であった。

単元名	〈社会科〉 昔の人々のねがいと努力 ～鹿妻穴堰の開発～	学年	4 学年
-----	--------------------------------	----	------

## (1) ねらい

盛岡地域に関わる先人として鎌津田甚六を取り上げ、その働きについて、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目し、見学・調査したり、地図などの資料で調べたり、年表などにまとめたりする活動を通して、地域の発展に尽くした甚六の具体的事例をとらえ、様々な苦心や努力により、当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しながら、地域の発展に尽くした先人に対する尊敬の念と郷土への誇りをもたせ、自分のこれからの生き方や考え方を考えさせる。

## (2) 指導計画

学習段階	時数	学習内容
単元の導入	1	約 400 年前に鎌津田甚六が鹿妻穴堰を造り、その後用水路が広がって現在でも使われていることを知り、学習問題をつくる。
学習問題の追究	1	鹿妻穴堰が造られたわけを地図などの資料で調べてとらえる。
	1	用水路の取り入れ口をどのように決めたかを資料を調べてとらえる。
	1	穴口工事の様子について、絵などの資料を調べてとらえる。
	1	穴堰ができた後の人々の生活の変化をグラフなどを調べてとらえる。
	1	人々は甚六のことをどう思っているのか写真資料等を基にとらえる。
見学学習	4	盛岡市上太田の鹿妻穴堰頭首工を見学し、説明を受けて学ぶ。
学習のまとめ	2	学習したことをリーフレット等にまとめ、郷土の先人として人々の生活の向上のために貢献した甚六への思いを表現する。

## (3) 活動の様子

それぞれの時間に学習したことを振り返り、感じたことや考えたこと、調べてみたいこと等を書く活動を取り入れた。単元学習のまとめの時間では、地域の先人である鎌津田甚六について感じたことを感想あるいは甚六へのメッセージとして書く活動を取り入れた

＜児童の感想＞

わたしは甚六のことをそんけいできます。なぜなら村をすくったからけんかがなく、今でも盛岡がなりたっているのではないかと思うからです。甚六は命をはって工事をして、村をすくったのが分かって、この人はすごい人だったんだと感じました。

鎌津田甚六さんの2年あまりもかかった工事で用水路がかなりできて、問題が解決し、どんどん人が来ました。穴口工事がなければもうそこには、誰も住んでいなくて、砂ばくのようにひからびていたと思います。甚六さんが工事をしたから、現在の岩手があると思いました。

## (4) 考察

- ・毎時間、振り返りを書くことで、鎌津田甚六や当時の村人への思い入れが深まり、学習したことを共感的に理解できるようになった。
- ・単元学習のまとめとして甚六について感じたことを書いた感想では、甚六の果たした功績と鹿妻穴堰の完成が現在の私たちの豊かな暮らしの基になっていることを理解するとともに甚六への感謝と尊敬の念を抱くことができた。
- ・「郷土の文化と伝統を大切にしようとする子ども」「郷土への誇りをもつ子ども」についても他教科又は社会科の別単元で意図的に指導していきたい。

単元名	〈総合的な学習の時間〉 150年の想いを受け継ぐぼくたち、わたしたち	学年	5 学年
-----	---------------------------------------	----	------

## (1) ねらい

見前小学校開校創立時に大きくかかわった宮崎求馬氏や卒業生、地域の方の想いを想像してよりよい学校生活を送りたいという想いをもつことができる。

## (2) 指導計画

学習段階	時数	学習内容
知る	2	創立のきっかけや校舎、創立に関わった人物等を知る。創立 100 年、120 年、130 年の記念誌を読み、現在と同じところや違うところを探す。
気づく	1	学級で探してまとめたことを児童同士でシェアして、意見を交換する。先人の想いを想像する。
考える	2	どんな見前小学校にしたいのかを考えて意見を交流する。そのために何をしなければならぬのかを話し合い、学年取組の計画をたてる。
まとめ	1	学習発表会で呼びかけとして発表する。

## (3) 活動の様子

- ・教員が精選した資料を、ロイロノートで配布し、各自で資料を閲覧できるようにした。また提出ボックスを回答共有して、他の人の考えを見られるようにしたところ、何をすればいいのか迷うことなく、全員が自分の考えや意見をもつことができた。
- ・「自分から学ぶ姿」「安全に学ぶことができる学校にしたい」という先輩の気持ちに気付く児童が多かった。「ボロボロの校舎。崩れてくる天井」「プールは漏水しプールサイドの破壊により怪我が続出」していたことを知り「現在私たちが安全な校舎で学ぶことができるのは保護者や地域の方のおかげ」という意見から、現在修復された校舎をきれいなまま後輩に残していこうという想いをもった。そこから、「無言での清掃」を目標にした取組を行った。



【知る】ロイロノートで配布した資料



【考える】ロイロノートでお互いの考えを交流させる



【まとめ】学習発表会で先輩方への想いを呼びかけにして発表

## (4) 考察

- ・学校の歴史を振り返ることで、「無言清掃」について児童から問題提起があり、児童が中心になって取り組む活動となった。
- ・ロイロノートで提出ボックスに意見を送り、全員が見ることができる状態にしたことによりたくさんの児童の意見を視覚化することができた。
- ・「よりよい学校生活を送りたい」という意識が学年全体に浸透し、少しずつ生活態度の改善が見られるようになった。
- ・学年取組の「あいさつ」、「無言清掃」の意識付けのために、学年集会で共通理解をはかり、取組み表を用いてみんなの頑張りが見えるようにしたが、短い期間での定着は難しかった。今後も継続しての指導が必要である。

単元名	〈総合的な学習の時間〉盛岡の先人から学ぼう	学年	6 学年
-----	-----------------------	----	------

(1) ねらい

- ・同郷出身の歴史上の偉人の生き立ちや偉業、思いから学んだことをこれからの自分の生活に生かしたり、生かそうとする思いをもったりすることができるようにする。
- ・調べたことや考えたことをより上手に相手に伝えられるように工夫することができる。

(2) 指導計画

学習段階	時数	学習内容
知る	1 時間	石川啄木・原敬、盛岡市出身の偉人について、資料『盛岡の先人』を活用し、子どもたち自身が興味をもった先人について調べる。
調べる	1 時間 授業外	自身が興味をもった偉人について、資料だけでなくインターネットを活用したり、記念館に行って情報を集めたりして調べる。
表現する	2 時間	自身の調べたことを他の人によりわかりやすく伝えるために、パソコンでスライドを作成する。
伝える	2 時間	作成したスライドを用いて発表を行う。
振り返る	1 時間 家庭学習	自身が興味をもって調べ、他の人の発表から得た情報で、偉人の生き方や考え方から学んだことと、これからの自分の生き方に生かしていきたいことを「一筆啓上」という形で表現する。また、調べた偉人について家族に紹介し、感想をもらう。

(3) 活動の様子

【知る】

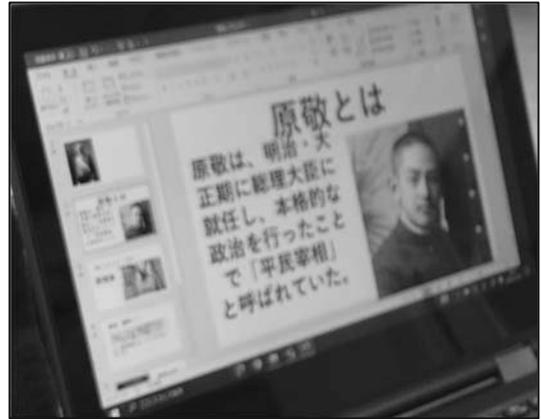
資料を読んでいく中で「へえ!」「そうなんだ!」など、子どもたちから前向きな反応があった。資料に線を引いたり、不思議に思ったことを書き込んだりして学習した。

【調べる】

調べ活動中、子どもたちから驚きの声が聞こえ、自分の予想と比較しながら調べ学習に取り組んでいることを認知した。休日に家族で原敬墓所や原敬記念館、啄木新婚の家など、偉人にまつわる場所を訪れ、偉人について調べる子どもたちが見られた。

【表現する】

「自分の伝えたいことは何か」を意識して、パソコンで資料づくりに取り組んだ。子どもたち同士で分からないことを聞き合い、教え合う姿が見られた。相手に聞いてもらうというねらいをもって、クイズ形式のスライド資料を作成する子どもがいた。



〔児童が作成したパワーポイント資料〕

【伝える】

子どもたちはそれぞれが印象に残るように工夫して発表をした。聞き手の反応がたいへんよかった。

【ふりかえり】

自分から偉人の生き方や考えについて学んだことを保護者に話すことで、親子で学ぶ機会となった。

(4) 考察

- ・自分の調べたことをどのようにしたらより伝わるのか、必要な「相手意識」を常にもって学習活動に取り組むことができた。
- ・親子で先人を学ぶ機会となった。また、保護者が我が子に対して、どんな人になってほしいという願いをもっているのかを知る機会となった。
- ・スライドに書いてあることをそのまま読んで、自分が伝えたいことを上手に伝えられないこともあり、調べたことを上手に伝えることの難しさを感じた子どももいた。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・小中間で学習内容を交流する良い機会になった。
- ・150周年記念事業と関連させ、本校ならではの先人教育を進めることにより、子どもたちに周囲の方々への感謝の気持ちをもたせたり、愛校心を育んだりすることができた。
- ・コロナが明け、地域の方や先輩方をゲストティチャーとしてお招きしたり、校外へ出かけて人と会って学習したりすることができ、学びを充実させることができた。

### (2) 課題

- ・教職員が中学校区の実践を理解し、今後も3校の連携を継続していく必要がある。
- ・子どもたちに授業する際に、「先人教育」の視点で指導するという意識を、教職員一人一人に徹底させられなかった。ねらいを意識して指導することを大切にしていきたい。
- ・今回系統表を見直したが、これからも地域の方や先輩方と積極的に関わる活動を取り入れ、見前小ならではの先人教育を確立させていきたい。
- ・次年度以降のために、地域の人材データや、学習で使用した資料等を蓄積するなど環境を整え、誰が担任をしても授業ができるように整えたい。



〔見前中の先輩からスタートの指導を受ける様子〕



〔150周年記念「見小検定」に挑戦する子どもたち〕



〔世界一になった三味線奏者の卒業生にインタビューをしている様子〕

令和5年度  
「盛岡の先人教育」実践事例

**<研究主題>**

**盛岡の先人の「生き方」「考え方」  
から、自分の生き方を見つめる  
児童の育成**

**～ユニバーサルデザインの視点  
を取り入れた全員参加の授業  
を目指して～**

盛岡市立津志田小学校

# 令和5年度「盛岡の先人教育」全体計画

**【本校で目指す子ども像】**

- 自分のために、みんなのために行動する子ども
- 毎日の学習を大切にに取り組む子ども
- 目標をもちねばり強く取り組む子ども

**【学校教育目標】**

- 思いやりのある子ども
- よく考える子ども
- やりぬく子ども

**【盛岡市教育ビジョン】**

「多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心と健やかな体をもち、自ら学び、共に未来を創る人」

**【子どもの実態】**

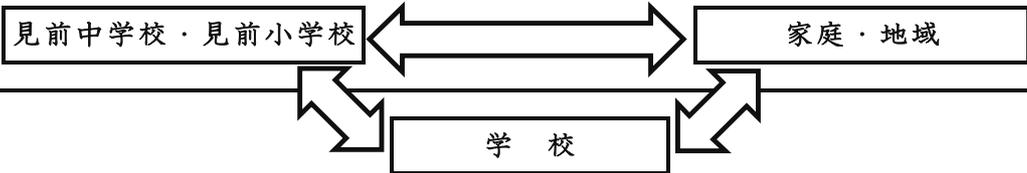
- 新興住宅地域と従前からの住宅地域、農村地域が混在し、児童の地域の文化や伝統に対する興味や関心に差が見られる。
- 賃貸住宅が多いため、地域の文化や伝統について知らない家庭、児童が増えてきている。
- 他者とのコミュニケーションを積極的に行えず、悩みを抱える子どもが増えてきている。

**【盛岡市先人教育の目標】**

- 盛岡の先人の生き方を学ぶことを通し、より高い価値を志向していこうとする豊かな心を育てる。
- 多くの先人を育ててきた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつ温かさを知り、ふるさと盛岡への誇りをもつ。

**【先人教育をとおして目指す子ども像】**

<b>≪ 1・2年 ≫</b>	<b>≪ 3・4年 ≫</b>	<b>≪ 5・6年 ≫</b>
○地域でお世話して下さる方に関心をもち、郷土の暮らしや文化に親しみと愛着をもつ子ども	○伝統や文化に関わってきた地域の先人や、郷土の発展に尽くした盛岡の先人に関心をもち、調べよう、学ぼうとする子ども	○先人の生き方や考え方を学び、目標や夢に向かって努力する子ども ○盛岡の風土や伝統、そして文化に愛着や誇りをもつ子ども



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
教科	【国語】 ・きいてたのしもう ・むかしばなし	【国語】 ・こんなもの ・みつけたよ	【社会】 ・もっと知りたい ・みんなのまち ・さぐってみよう ・むかしの暮らし	【社会】 ・むかしの暮らし ・外国とのつながり ・新渡戸稲造 【国語】 ・短歌・俳句に ・親しもう ・石川啄木	【国語】 ・やなせたかし ・日常を十七音で 【社会】 ・未来を支える ・食糧生産 ・未来をつくり出す ・工業生産	【社会】 ・世界の中で活躍した日本人 ・新渡戸稲造 【国語】 ・やまなし ・イーハトーブの夢 ・宮澤賢治
生活・総合	・むかしあそびをおそわろう (2学期)	・町たんけんにいこう (1・2学期)	・津志田羊の子のはかせになろう (1・2学期) ・津志田の昔を調べよう (3学期)	・津志田さんさを知ろう ・盛岡のじまんをしらべよう	・盛岡・岩手の先人に学ぶ	・盛岡・岩手の先人に学ぶ
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○短歌・俳句大会（全校）</li> <li>○一筆啓上（4～6年）</li> <li>○先人カレンダーの掲示（全校）</li> <li>○先人給食メニュー（2月）</li> <li>○郷土食メニュー（年3回）</li> </ul>					

学校名	盛岡市立津志田小学校	児童数	753 名
研究主題	盛岡の先人の「生き方」「考え方」から、自分の生き方を見つめる児童の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた全員参加の授業を目指して～		

### 1 研究主題設定の理由

盛岡市の学校教育は「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」の3つの力をバランスよく育むことを目指している。その3つの力を伸ばすための根幹となる「学ぶ意欲・目的」を高めていくための重要な役割を果たすものの一つとして「盛岡市の先人教育」を位置付けている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や道徳、総合的な学習の時間などすべての教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方について学ぶことを通して、次世代を担う子ども達に「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛情」「目標に向かって努力する心」を育むことを目標としている。

そこで本校では、自分の生き方を見つめる学習の中に先人教育を位置付けることで、「郷土を愛し、自分の将来に夢や希望をもち、社会の発展に関わっていこうとする児童」を育成することができるであろうと考え、本主題を設定した。

### 2 研究の目標

- (1) 「盛岡の先人」の生き方や考え方、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。
- (2) 身近な地域、郷土の自然、文化、歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛情」と「誇り」をもてるようにする。

### 3 研究の基本的な考え方

#### (1) 本年度の重点

これまで本校で取り組んできた実践を基本とし、今年度は以下の3点を重点として取り組む。

- ・地域の先人や地域で働いている人々から生き方や考え方を学ぶ。
- ・教科との関連性を大切に先人教育の実践を進める。
- ・見前中学校区での小中9年間の系統性を大切に小学校段階での実践の充実を図る。

#### (2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・ブロック研修において、盛岡市教育委員会 工藤咲香主任指導主事より、盛岡市の先人教育について講話をいただき、今年度の方向性を共有した。
- ・3校の実践内容をもとに、先人教育全体計画の改善を図る。
- ・実践の交流（各校の学習に対する感想の交流）

#### (3) 取組の内容

- ・授業実践
- ・先人教育環境の整備
  - ・図書館における先人コーナー
  - ・各教室の「先人カレンダー」掲示
- ・行事や教科との関わりの取組
  - ・「一筆啓上」への応募

## 4 取組の概要

単元名	おにいさん おねえさんからまなぼう～ぼくら つしだっ子	学年	1 学年
-----	-----------------------------	----	------

## (1) 単元のねらい

上級生の活動の様子を見学したり、上級生と交流したりする活動を通して、これからの学校生活に期待と意欲をもって取り組もうとする気持ちを育てる。

## (2) 指導計画（4 時間）

段階	学習活動	時数
一次	○オリエンテーション ○2年生からまなぼう・・・「学習発表会」練習の見学 ○4年生からまなぼう・・・「連合音楽会」練習の見学 ○6年生からまなぼう・・・一緒にあそぶ	3
二次	○ふりかえり	1

## (3) 活動の様子

## ① 2年生の「学習発表会の練習」を見学させてもらった。

<児童の振り返りから>

- ・すごく声が大きくてよかったです。本番も大きな声でがんばってほしいです。1年後がわくわくします。
- ・声が大きくてよかったです。声がそろっていてすごかったです。
- ・2年生になって発表するのがたのしみです。さっき聞いたみたいにちゃんと大きな声でやりたいです。



## ② 4年生の「連合音楽会」の練習を見学させてもらった。

<児童の振り返りから>

- ・合唱を聴いて、すごいな、きれいな声だな、すてきななと思いました。一番すてきな歌だと思いました。わたしも歌ってみたいです。
- ・歌が心にのこりました。姿勢もとってもよかったです。3年後、今聴いたみたいな合唱になればいいな。



## ③ 6年生の国語科「みんなで楽しく過ごすために」の学習として、1年生と楽しく交流する会の内容を企画・運営してもらい、一緒に楽しくあそんだ。

<児童の振り返りから>

- ・じゃんけん列車も、リレーも、ぜんぶ楽しくて、6年生が考えてくれてうれしかったです。
- ・6年生がぼくたちのために、楽しい遊びを考えてくれてうれしかったです。ぼくたちもあんなふうになりたいです。
- ・自分が6年生になったら、今日遊んだ6年生みたいになって、1年生をよろこばせたいです。
- ・自分が6年生になったら、今の6年生みたいに心優しいおねえさんになりたいです。
- ・6年生が何時間もかけて遊びを考えてくれてありがとう。ぼくたちも6年生になったら、1年生が楽しめる遊びをつくりたいです。



## (4) 考察

身近な存在である上級生との交流を通して、自分も2年生、4年生、6年生になったら…と、近い将来の自分について具体的なイメージをもって考えさせることができた。特に入学からお世話になってきた6年生に対して、「自分もあんな6年生に！」とあこがれや感謝の気持ちを深めた様子であった。そのことが「津志田っ子」としての自覚と、これからの学校生活への前向きな取り組みにつながっていくものと期待している

単元名	おもちゃをつくろう (生活科)	学年	2 学年
-----	-----------------	----	------

(1) 単元の目標

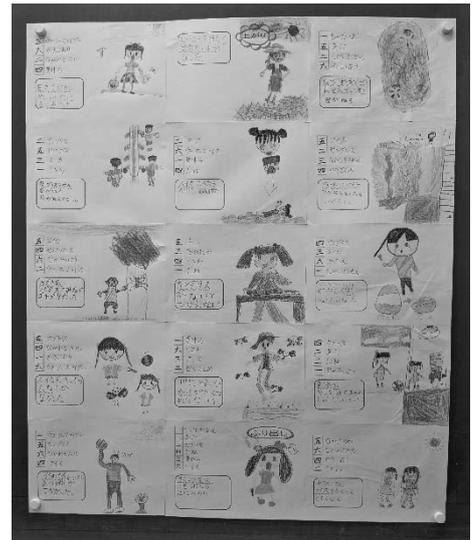
身近にある物を使っておもちゃを作る活動を通して、古くから親しまれている遊びを調べたり、楽しくなるように遊び方やルールを変えるなどの工夫をしたりし、遊びの面白さに気付くとともに、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。

(2) 指導計画 (12 時間)

段階	学習活動	時数
一次	○オリエンテーション ○どんなあそびをしていたのかな ○つくりたいおもちゃをきめよう	3
二次	○「すごろく」をつくろう	3
三次	○「うごくおもちゃ」をつくろう	4
四次	○あそび方をくふうしよう	2

(3) 活動の様子

- 一次の「古くから親しまれている遊びを調べる活動」の中で、盛岡市の先人である新渡戸稲造さん「すごろく」を自分で作って遊んでいたことを紹介し、同じ様式の「すごろく作り」に挑戦することにした。
- 二次では、子ども達が普段目にしていない「すごろく」とは様式がかなり異なるため、新渡戸稲造さんの作った「すごろく」の様式を分かりやすく説明し、今回は子ども達が体験した「暑い夏」をテーマにすることにした。合わせて、新渡戸稲造さんはユニークな文章を取り入れて楽しんでいたことも知らせ、文章の工夫をするようにアドバイスした。
- 三次では、始めは、イメージがわからず、取り組みに時間がかかったが、要領が分かってからは楽しんで作る姿が見られ、ユニークな絵や文章を多く考えるようになった。
- 四次では、グループ毎に遊び、普段やっている「すごろく」とは違って、運が良ければ簡単に「上がる」ことに気づいたり、誰がリードしているか分からないところを楽しんだりした。休み時間に遊ぶ姿も多く見られた。



(4) 考察

- 新渡戸稲造さんの作った「すごろく」を自分なりに再現することで、稲造さんの「すごろく」の面白さを味わうことができた。
- 偉業を成し遂げた先人でも、自分たちと同じような遊びを楽しんでいたことを知り、親しみの気持ちをもつことができた。
- 新渡戸稲造さんの「すごろく」を実際に見せることができればもっと早くイメージをもつことができたように思う。
- 新渡戸稲造さんの偉業について、2年生なりに触れることができれば、更に親しみをもつことができたように思う。



単元名	津志田芋の子はかせになろう	学年	3 学年
-----	---------------	----	------

## (1) 単元の目標

藩政時代から食べられてきた津志田芋の子。地場産品である芋の子の栽培の歴史や栽培方法について知るとともに、ゲストティーチャーの支援を受けながら栽培体験を行うことをとおして、地域の産業を担ってきた先人について学ぼうとする態度を養う。

## (2) 指導計画 (31 時間)

段 階	学習活動	時数
一 次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○津志田芋の子を育てよう               <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・津志田芋について知っていることや疑問を話し合う。</li> <li>・これからの学習の見通しをもつ。</li> <li>・芋の子を植えるための計画を立てる。</li> </ul> </li> <li>○津志田芋の子を植えよう               <ul style="list-style-type: none"> <li>・芋の子を植える。(ボランティアティーチャー数名)</li> <li>・体験を絵で表し、発表する。</li> </ul> </li> <li>○津志田芋の子を育てよう               <ul style="list-style-type: none"> <li>・芋の子の観察 (葉や茎の様子)</li> </ul> </li> </ul>	12
二 次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○津志田芋の子を収穫しよう               <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫の計画を立てる。(グループ分け)</li> <li>・芋の子を収穫する。(ボランティアティーチャー数名)</li> <li>・体験を絵で表し、発表する。</li> </ul> </li> </ul>	9
三 次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○芋の子学習会をしよう               <ul style="list-style-type: none"> <li>・津志田芋について、「育て方」「歴史」「料理」の3グループに分かれて学習する。(ボランティアティーチャー数名)</li> <li>・個人新聞を作る。</li> </ul> </li> <li>○まとめる</li> <li>○交流する。振り返りをする。</li> </ul>	10

## (3) 活動の様子

- ・一次では、導入として「津志田芋の子」についてのオリエンテーションを行い、地域の産業についての関心を高めた。
- ・ボランティアティーチャーの協力のもと、地域の畑に出向き芋の子を植えた。その際、保護者ボランティアにも協力していただき、子ども達全員が満足する活動ができた。その後、学校の畑に植えた数本の芋の子を定期観察した。
- ・二次では、芋の子の収穫をした。前回同様にボランティアティーチャーの協力のもと、一人20個～50個くらいの芋の子を収穫することができた。(※写真参照) 子ども達は大満足な様子であり、収穫した芋の子は、各家庭に持ち帰った。
- ・三次では、ボランティアティーチャーに来校していただき、芋の子学習会をした。学年全体が「育て方」「歴史」「料理」の3グループに分かれ、それぞれ質問をしながらしっかりと学んだ。その後、個人新聞にまとめ、交流をすることで地域に伝わる「津志田芋の子」について知識を深めるとともに、産業に携わる先人の思いや願いに気付くことができた。



## (4) 考察

- ・地域の伝統産業である「津志田芋の子」について、実際に栽培収穫体験をしたことにより、身近な教材として学ぶことができた。
- ・ゲストティーチャーの協力のもと、地域の伝統産業を守る先人達の思いや願いに気付くとともに、今後の津志田について子ども達なりに考えるきっかけとすることができた。
- ・地域の畑に出向き芋の子を植えた後は、水やりや草取り等の管理をすべてボランティアティーチャーにまかせていたので、収穫するまでの苦労を実際に体験することができなかった。そこで、学校の畑での栽培面積を増やし、学年で管理する体験を増やしていくことができるのか検討することが必要である。

単元名	津志田さんさを知ろう	学年	4 学年
-----	------------	----	------

## (1) 単元の目標

「津志田さんさ」の歴史についての話を聞き、地域の文化を大切にしようとする態度を育てる。

## (2) 指導計画 (15 時間)

段 階	学習活動	時数
一 次	○オリエンテーション ○さんさ踊りについてインターネットで調べる。	3
二 次	○ゲストティーチャーから、津志田さんさを教わる。 ○ゲストティーチャーから、津志田さんさの歴史についての話を聞く。	8
三 次	○津志田さんさについてまとめる。 ○3 年生と交流する。 ○ゲストティーチャーに感謝の手紙を書く。	4

## (3) 活動の様子

## 【運動会で津志田さんさを披露する様子】



- ・一次では、さんさ踊りについて調べ学習をした。
- ・二次では、津志田地区に伝わる伝統さんさについて、ゲストティーチャーに踊り方を教わった。また、さんさの歴史、踊りに込められた思いや踊り継いできた人々の願いについて詳しく話を聞き、学ぶことができた。
- ・三次では、3 学期、3 年生に太鼓と笛の演奏を引き継ぐ。

## 【運動会での児童の感想】

私は、最初は上手に踊れなかったけど、練習をしたら上手にできたのでよかったです。ゲストティーチャーが、「ふりを大きくやるといいよ。」と言ったので、やったらできたのでよかったです。あと、3 年生に教えるのをがんばりました。

さんさの踊りがとても楽しかったです。その代わりむずかしかったです。最初はできなかったけどゲストティーチャーの練習でようやく出来ました。3 年生のときは、うまくできたと思います。

最初はあまり踊れなかったけど、さんさを覚えるためにゲストティーチャーのお手本動画をたくさん見て覚えることを頑張りました。あとは、英樹さんにこうやれば上手くいくよと言われてやったら上手くできてすごくうれしかったです。

## (4) 考察

- ・単に運動会で披露するからといった理由ではなく、自分たちで盛岡さんさ踊りを調べたり、佐藤英樹さんに教わったり、お話をいただいたりする活動の中で、自分たちも津志田さんさを踊り継いでいる一員なのだという意識をもつことができた。
- ・国語や社会などの教科と関連付けて指導することで、教科横断的に先人教育を進めることができた。
- ・踊ることができるようになるだけでなく、これからの津志田さんさについて考え、伝統をなくさないために一人ひとりにできることは何かを考え、交流する機会を設けるべきであった。

単元名	盛岡の先人を知ろう～金田一京助・石川啄木～	学年	5 学年
-----	-----------------------	----	------

## (1) 単元の目標

- ・盛岡、岩手の先人について、生い立ちや人となり分かるようなエピソード、数々の功績について学習し、敬愛の念をもつようにする。
- ・啄木カルタを通じて、石川啄木の短歌にふれる。

## (2) 指導計画（15 時間）

段 階	学習活動	時数
一 次	○オリエンテーション ○先人副読本「盛岡の先人」を読み、盛岡の先人たちについて知る。	2
二 次	○先人記念館出前講座(1) 課題設定(1) ○金田一京助・石川啄木について調べる。 ※調べ学習には先人副読本、インターネットを使用する。(4)	6
三 次	○ロイロノートでまとめる。 ○発表会・振り返りをする。	7

## (3) 活動の様子

## 【第一次】

- ・オリエンテーションとして、夏休みに取り組んだ「子どもと話そう～親子の架け橋・一筆啓上」で金田一京助と石川啄木について知っていることを発表し合った。また、先人副読本を読み金田一京助と石川啄木の生涯と業績について疑問に思ったことをまとめた。出前講座の際に子ども達の疑問についても触れていただくこととした。

## 【第二次】

- ・先人記念館の方に講師として来校いただき、金田一京助と石川啄木について分かりやすく教えていただいた。それぞれの生い立ちや人となり分かる話や功績、二人の出会いやその後の関係性について知ることができた。調べ学習の意欲につなげることができた。
- ・調べ学習の課題は①生き方②功績③二人のつながりの3つとなった。調べ学習は、先人副読本、タブレット、先人記念館の資料等で調べることもできた。



## 【第三次】

- ・ロイロノートを使って、調べたことをまとめていく。自分の調べたこと、活動を通して学んだことや考えたことを班や全体で発表し合う。
- ・校内の先人コーナーの掲示板に掲示し、全校や来校者に見ていただく。

## (4) 考察

- 先人記念館の出前講座を通し、副読本等には載っていない内容や自分達が知りたいと思っていることに触れていただくことでより興味をもって学習に取り組むことができた。
- タブレットを活用することで調べ学習をしたり、まとめ方を工夫したりすることができた。
- ▲インターネットで調べる方法に偏ってしまったので、他の調べる方法についても準備しておく必要がある。

単元名	盛岡の先人を紹介しよう	学年	6 学年
-----	-------------	----	------

(1) 単元の目標

- ・歴史の学習と関連させながら、原敬・米内光政・新渡戸稲造の生き方やその偉業について調べ、盛岡の先人たちへの敬意と誇りを感じるとともに、そこから自分の生き方について考える。
- ・自分の課題を持ち、その課題について調べたり、考えをまとめたりする力を高める。

(2) 指導計画 (23 時間)

段 階	学習活動	時数
一 次 興味を 持つ	○「盛岡の先人はだれ」・・・自分の課題を持ち、学習計画を立てる。 ・原敬・米内光政・新渡戸稲造について、「盛岡の先人たち」を読み、大まかな人物像を知り、一人を選び自分の課題を持つ。 ・調べる計画を立て、活動の見通しを持つ。	5
二 次 調べる	○「先人について調べよう」・・・自分の課題について追究する。 ・図書資料やインターネットを通して、自分の課題について調べる。 ・先人の業績やその生涯を調べ、さらに具体的な課題を持つ。	10
三 次 深める	○「先人の志にならおう」・・・先人の考え方や生き方のすばらしさを感じる。 ・先人記念館・原敬記念館を見学する。	4
四 次 まとめる	○「自分のこれからをみつめよう」・・・学習をまとめ、発表する。 ・個人新聞にまとめ、発表・交流する。 ・自分の生き方について考える。(見習いたいこと・努力したいこと等) ○「親子のかけ橋～一筆啓上～」に応募する(夏休みの課題)	4

(3) 活動の様子

- ・一次では導入として、先人について知っていることを話し合ったり、「盛岡の先人たち」を読んで分かったことをワークシートにまとめたりして、先人への関心を高めた。
- ・二次では設定した個人課題を解決するために調べ活動を進めた。資料が少ないため、インターネットを利用した調べ活動が多くなった。
- ・三次では盛岡市先人記念館と原敬記念館の見学をし、事前に調べたことについて理解を深めた。
- ・四次ではそれぞれの調べた先人について個人新聞にまとめ、掲示することで、先人の偉業について発信した。



(4) 成果と課題

- 5年時に金田一京助と石川啄木について調べ、先人の生き方から学んだことについてまとめた。6年時ではその経験をもとに新渡戸稲造や米内光政、原敬について個人課題を設定し、進んで調べることができた。
- 盛岡市先人記念館と原敬記念館を見学し、盛岡の先人にかかわる資料を直に見ることで、先人たちへの親近感や敬意を増すことができた。
- ▲先人にかかわる資料が「盛岡の先人たち」とインターネットで検索したものしか見つけられず、資料が不足していたと感じる。学校図書館に資料を収集しておく必要がある。

## 5 成果と課題

### 【成 果】

- ・小中学校間での学習内容を交流する良い機会となった。
- ・全体計画の見直しを行ったことで、小学校段階で目指す子ども像がより明確になった。
- ・低学年においては、身近な上級生を先人として様々な活動を行った。活動を通して、数年後の自分がどうあればよいか、具体的にイメージをもつことができた。
- ・地域の先人をボランティアティーチャーとして招いた際には、児童の実態に応じた講話をしていただいた。講話を通して、児童も伝統を引き継いでいる一員であるという自覚をもつことができた。
- ・先人記念館の出前講座では、副読本等にはない内容や、自分たちが知りたいと思っていることに触れていただくことで、児童一人一人がより興味をもって学習に臨むことができた。

### 【課 題】

- ・小中学校間の交流では、ICTを活用するなど、交流方法においても模索していく必要がある。
- ・全体計画の見直しはできたが、系統性を踏まえた指導は十分とは言えない。教職員で共通理解を図り、9年間で育てる姿を共有する必要がある。
- ・取組をよりよいものとするために、実践内容を蓄積したり、次年度以降に引き継ぐために資料の整理を行ったりする必要がある。
- ・地域の先人においては、高齢化が進んでいるため、来校していただくことが難しくなっている。また、継承者となる方も少なく、人材不足が大きな課題である。

令和5年度  
「盛岡の先人教育」実践事例

**<研究主題>**

**郷土の発展を支える生徒の育成  
～持続可能な社会のための先人  
教育を通して～**

盛岡市立見前中学校

盛岡市立見前中学校 令和5年度「盛岡の先人教育」全体計画

子どもの実態

- 素直で前向きに諸活動に取り組む生徒が多い。あいさつができる生徒が多い。
- 学校の雰囲気や生徒が元気で活気がある。

学校教育目標

『学び合い  
支え合い  
鍛え合う』

盛岡市教育ビジョン

「多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び、共に未来を創る人」

本校の先人教育目標  
郷土の発展を支える生徒の育成  
～持続可能な社会のための先人教育を通して～

めざす生徒像 「自ら 瑠璃を照らし 前見すえ 笑顔あふれる」生徒を育てたい。(見前力の育成)

中学1年

- 盛岡の風土・先人の活動が、現在を生きる地域住民に、どのように受け継がれているのか考えようとする生徒

中学2年

- 「自身の現状」を適切に把握したり、「将来実現したいこと」をイメージしたりすることができる生徒。

中学3年

- 「自身の現状」の課題を解決しつつ、「将来実現したいこと」に向けて行動をおこすことができる生徒。

	1年	2年	3年
各教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌俳句作品制作（国語）</li> <li>市出身のスポーツ選手と成績（保健体育）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌俳句作品制作（国語）</li> <li>石川啄木の短歌を読み味わう（国語）</li> <li>原敬「政党政治」（社会）</li> <li>新渡戸稲造「国際連盟」（社会）</li> <li>石川啄木「明治の文化」（社会）</li> <li>こんな人になりたい（英語）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金田一京助「アイヌの文化、多文化共生、人権」（国語）</li> <li>石川啄木の短歌が使われている歌曲の鑑賞及び歌唱（音楽）</li> <li>米内光政「二つの世界大戦と日本」（社会）</li> </ul>
総合	<p>(総合LIFEテーマ)SDGsの観点を取り入れながら、自己の生き方を創造する</p> <p>【自分をとらえる】 【集団（社会）への適応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郷土盛岡を知ろう、自分を知ろう</li> <li>GIGA端末を使った学習の仕方を学ぶ</li> <li>くずまき高原（遠足）でSDGsについて学ぶ</li> <li>職業講話（未来図書館）で進路・生き方について学ぶ</li> <li>今年度のまとめ・自己評価</li> </ul>		
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>「壊れた看板」</li> <li>「町内会デビュー」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>復旧にあらず、復興なり（後藤新平）</li> <li>「ヨコスカネイビーパーカー」</li> <li>「未来から来たおじいさん」</li> <li>「五色桜」</li> <li>「村を救った防潮堤」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ねぶたを夢見て」</li> <li>「未来の日本へデビュー」</li> <li>「白川郷に魅せられて」</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>先人カレンダーの掲示</li> <li>先人給食メニュー（2月）、郷土食メニュー（年3回）</li> </ul>		

教育課程等における位置づけ

近隣小学校との連携

家庭・地域との連携

- ・地域との関わり(クリーンアップ作戦)
- ・PTA広報「たかやぐら」

学 校 名	盛岡市立見前中学校	生徒数	599 名
研究主題	郷土の発展を支える生徒の育成 ～持続可能な社会のための先人教育を通して～		

### 1 研究主題設定の理由

盛岡市の学校教育は「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」の3つの力をバランスよくはぐくむことを目標としている。その3つの力を伸ばすための根幹となる「学ぶ意欲・目的」を高めていくための重要な役割を果たすものの一つとして「先人教育」を位置づけている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や特別活動、道徳、総合的な学習の時間などすべての教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方に学ぶことを通して、次世代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛情」、「目標に向かって努力する心」を育むことを目標としている。

そこで本校では、生徒一人一人に「夢」と「誇り」と「志」を持たせるような取り組みの中に先人教育を位置づけることで、地元に着着を持ち、誇れる地域にしたい、地域の役に立ちたいといった、郷土の発展を支える生徒が育つであろうと考え、この主題を設定した。

### 2 研究の目標

- (1) 盛岡の風土・先人の活動が、現在を生きる地域住民に、どのように受け継がれているのか考えようとする生徒を育成する。
- (2) 「自身の現状」を適切に把握したり、「将来実現したいこと」をイメージしたりすることができる生徒を育成する。
- (3) 「自身の現状」の課題を解決しつつ、「将来実現したいこと」に向けて行動をおこすことができる生徒を育成する。

### 3 研究の基本的な考え方

#### (1) 本年度の重点

これまで本校で取り組んできた実践を基本とし、今年度は以下の3点を重点として取り組む。

- ・ 職場体験学習や地域調べを通して、地域の先人や働く人から生き方や考え方を学ぶ。
- ・ 教科の授業において、先人教育の視点で学習指導を行う。
- ・ 見前中学校区での小中9年間の系統性を大切にした中学校段階での実践の充実

#### (2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・ ブロック研修において、盛岡市教育委員会工藤映香主任指導主事より、盛岡市の先人教育について講義を受け、今年度の方向性を共有した。
- ・ 3校の実践内容をもとに、先人教育全体計画の改善を図る。
- ・ 実践の交流（各校の学習に対する感想の交流）

#### (3) 取組の内容

- ・ 授業実践
- ・ 先人教育環境の整備
  - ・ 図書室における先人コーナー
  - ・ 各教室の「先人カレンダー」掲示
- ・ 行事や教科との関わりの取組

### 4 取組の概要

単元名	郷土盛岡を知ろう、自分を知ろう	学年	1 学年
-----	-----------------	----	------

#### (1) 単元の目標

- ① 自分たちの住む盛岡について、歴史、伝統、文化など誇れるものを学ぶ。
- ② 自分たちの住んでいる地域には、どんな仕事があるかを知り、自分の将来の職業を考える機会とする。

## (2) 指導計画 (全 18 時間)

段階	学習活動	時数
導入	○オリエンテーション ○職業講話 (男女共同参画について)	5
展開	○郷土盛岡について調べる (町の特徴や人口、施設についてなど) ○盛岡の未来について考える (こんな街になってほしい、こんな仕事があったら、こんな施設があったら) ○働くことの意義について考える ○職業インタビュー ○職業調べ	6
終末	○発表原稿、ポスターづくり ○学級発表会、学年発表会 (ポスターセッション) ○取り組みの振り返り	7

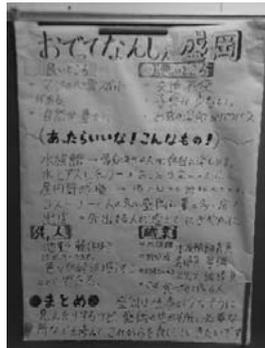
## (3) 活動の様子

1 学年では総合学習として、「自分を知る」、「地域を知る」をテーマに学習を進めた。自分たちの住んでいる盛岡市には、どのようなものや場所があったらよいかをグループごとに考え、さらに、それにはどのような職業が関わっているかを調べ、模造紙にまとめた。

事前学習として、9月27日(水)に講師として盛岡市男女共同参画推進室 佐藤 滯氏を招き職業講話を行った。グループワークを通して、男女関係なく、一人一人が自分らしく輝ける社会 とはどのようなものかについて考え、理解を深めた。



生徒からは、「男女ともに協力して助け合い、みんなが安心して暮らせる社会をつくりたい。」や「差別や偏見がなく、男女とも同じ立場で生活ができる社会になればよい。」などの感想があった。



学習の総まとめとして、学年発表会を行った。保護者のみなさんの参観の中で、ポスターセッションを行った。班ごとに「盛岡の魅力」、「盛岡の課題」、「盛岡にこんな仕事があったらよい」、「まちをよくするために必要なこと」などを発表した。また、先人の視点から、「盛岡のまちづくりに大きく貢献した人物」も紹介する班もあった。

生徒の振り返りからは、

- ・毎日過ごしている中で、色々な職業の人と関わっていることを知った。
  - ・街づくりにはたくさんの職業の人が関わっていることを実感した。
  - ・身近な人の職業調べを通して、盛岡、岩手のために働きたいと思うようになった。
  - ・職業調べから、仕事はその人やその人の人生に関わりが深いことを知った。
  - ・盛岡のことをより知りたくなり、よりよく暮らしていけるような街にできたらいいなと思った。
  - ・盛岡を未来に残したいと思える街づくりをしていきたいと思った。
- など、郷土盛岡の未来に自分自身も関わっていこうとする記述が多かった。

#### (4) 考察

- ・生徒たちにとって何気なく通っていた道や場所、美しい自然にも、盛岡市の先人たちの努力があったことを知ることができた。
- ・「盛岡市の先人」の視点を「盛岡市にある歴史を感じる場所」、「盛岡で一番古い〇〇」と、思考の幅を広げることで、生徒たちの考えを引き出すことができた。
- ・最初は「何が先人と関わっているのかわからない」と感じていた生徒もいたが、学習を進めていくにしたがって、先人との関係性に気付き、新たな発見につながった。
- ・「自分を知る」、「地域を知る」というテーマのもとで調べ学習に臨んだため、先人についての視点を十分に深めることができなかった。
- ・各学級、各班から様々な盛岡の先人についての学びや発見が模造紙にまとめられたが、十分な交流時間を確保することができなかった。
- ・今回の学習では「盛岡にあったらいいな」という目的のもと、その補足的な情報として先人を扱った。「先人教育」という大きなゴールを考えると、目的意識を持った学びに十分に繋がれず、課題が残った。

単元名	職場体験学習	学年	2 学年
-----	--------	----	------

#### (1) 単元の目標

- ①生徒が地域で働く人生の先輩の姿に触れながら、実際の勤労体験を通して「働く」ことの価値ややりがい、難しさなどを学ぶ。
- ②生徒が自分の将来を見据えながら社会の中で働く体験を通して、自分の進路を考える一助とする。
- ③社会の中で行動するマナーや職場で働く際の気遣い、気配りなどの社会性を身につける。

#### (2) 指導計画（全 20 時間）

段 階	学習活動	時数
導入	○オリエンテーション ○働くことの目的や意義について考える	6
展開	○職業調べ ○個人テーマの決定、体験先の決定 ○体験先との打ち合わせ ○自己紹介カード作成 ○マナー学習 ○職場体験学習	10
週末	○お礼状作成、送付 ○レポート作成	4

#### (3) 活動の様子

11月2日(木)、盛岡市内全46か所の事業所に2人～8人のグループで体験を行った。職場体験訪問先は以下の通り。

- ・サンファーム ・岩鑄 ・久慈設計 ・大伸工業 ・田頭正之土地調査事務所 ・アートホテル
- ・リサーチジュラヴィモア ・ベルヴィ盛岡 ・defi 都南 ・ヒラトヤ ・びっくりドンキー ・砂田屋
- ・南部家敷 ・ベルジョイス ・ベルプラス ・ビッグハウス ・ユニバース ・マックスバリュー
- ・田清魚店 ・トライアル ・フルールきくや ・サンフレッシュ都南 ・Aコープ ・DCM
- ・しまむら ・花の館 ・ツルハドラッグ ・スポーツデポ ・ニトリ ・ウエルシア ・花兵衛
- ・東見前保育園 ・見前保育園 ・都南保育園 ・ながい保育園 ・都南幼稚園 ・青葉幼稚園
- ・アイリス保育園 ・盛岡南消防署 ・都南図書館 ・県立図書館 ・自衛隊



体験では、地域で働いている方々の様子を目の当たりにし、人としての生き方や働くことの意義などを肌で感じ、多くの学びを得ることができた。

#### 【生徒のレポートから（働く人から学んだこと）】

- ・「仕事」とは、自分を成長させるものであることを学んだ。
- ・自分の武器となる個性を持つことが大切だと学んだ。コミュニケーション能力をもっと身につけたい。
- ・仕事をする上で、今ある課題をクリアするために目標を立て、コツコツ取り組んでいくことが大切だと知った。自分もコツコツ努力していきたい。
- ・誰かのために働く大切さ、誰かに感謝されるうれしさを知ることができた。中学校のうちに様々なことに興味を持ち、視野を広げたい。
- ・体験を通して、誰かに喜んでもらえる仕事に就きたいと思った。たくさん経験を積み、失敗を恐れずに行動していきたい。

など、体験を通して、生徒一人一人が働くことの意義を深めることができた。また、体験後の各事業所からの評価も好評だった。



#### (4) 考察

- ・体験当日は仕事内容だけでなく、働くことの意義についても学ぶことができた。また個人レポートを作成し交流することで、様々な種類の職業について学ぶことができた。
- ・体験を通して、「努力していきたい」や「積極的にチャレンジしたい」など、今後の目標をもつ生徒が増えた。
- ・事業所からの評価は好評ではあったが、挨拶や姿勢、話し方等の事前指導はもっと必要である。
- ・次年度以降は、職業講話等を実施し、働くことの意義や目的をより深めた段階で職場体験学習に臨ませたい。

単元名	村を救った防潮堤（道徳）	学年	2 学年
-----	--------------	----	------

#### (1) 単元の目標

1 学期に震災復興学習を行ったことをもとに、災害から地域を守ることに尽力した先人について、その生き方や考え方を学び、自己の生き方を見つめ直し、よりよい生き方を考える時間とする。

#### (2) 指導計画

	生徒の学習活動、主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 (5分)	1 「目標を立てて、達成できたこと、できなかったこと」について話す。	○テストの点数が高かった ○部活でスタメンになれた ○毎日宿題を出した △部活で県大会に行けなかった △テストの点数が悪かった △1点差で負けた	■自身の強みや弱さに気付かせながら、本時の価値への動機付けとしたい。

展開 (40分)	2 資料を読み、時系列を捉える。 同時に和村の気持ちや行動について話し合う。		■場面が切り替わるごとに 挿絵や写真を提示する。
	○和村はなぜ防潮堤や水門の建築にこだわったのだろうか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村民（の生活）を守るため</li> <li>・ 二度とあることは三度あってはならない</li> <li>・ これが自分のやるべきこと</li> <li>・ 津波による被害を軽減する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防潮堤の高さ 15mが必要であることにこだわる和村の気持ちに迫らせたい。</li> </ul>
	◎「和村は全ての村民の理解を得られることができなかった。」が、この場面でもし自分だったらどうですか？  ◎15mの建築推進をしたときの和村はどんな気持ちだったと思いますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜわかってくれないんだ</li> <li>・ 本当に必要なのか？</li> <li>・ やっていることは間違っているのか？</li> <li>・ ほかにことにお金を使った方がいいのだろうか</li> <li>・ それでも必要だ</li> <li>・ まだ諦めないぞ</li> <li>・ あの気持ちをもうしたくない</li> <li>・ 村民にも同じ思いをさせたくない</li> <li>・ 不幸が三度あってはならない</li> <li>・ ここで諦めてはいけない</li> <li>・ 使命を全うする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キラリノートに記入</li> <li>・ ネガティブな考えだけでなく、ポジティブな考えを引き出しつつ、葛藤している和村に共感させたい。</li> <li>・ 村民の意見を受け止めた上で、建築を推し進めていることを理解させる。</li> </ul>
3 自己とのかかわりを考える。 ◎苦しんだり、悩んだりしたときでも、自分の目標を達成するには、どうすればよいでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦しんだり悩んだりしながらも前に向かって挑戦し続ける</li> <li>・ 強い信念をもって行動する</li> <li>・ 最後まであきらめない</li> <li>・ 目標を立てたときの気持ちを忘れない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■キラリノートに記入</li> <li>■グループで共有し、その後全体で共有する。</li> <li>・ 自分の経験と結び付け、今後の自分の在り方について考えさせる。</li> </ul>	
終末 (5分)	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 努力がすべて結果に結びつくとは限らないが、最後までやり遂げようとするのが大切であることに触れる。</li> </ul>

### (3) 活動の様子

授業では、自分が村長の立場だったという視点で、先人の考えを予想し、グループで話し合いを行い自分の考えを共有した。

道徳ノートには、「和村の村を救いたいという気持ちのように、責任を持った人になりたい。」「防潮堤をつくるために、村民の命を守るために自分の考えを貫き、村を守った和村の思いはすごいと思った。」などといった記述があった。

授業を通して、和村幸得自身の郷土の未来への思いをとらえ、困難があっても強い意志や信念で防潮堤の建築を推進した先人の生き方を追体験できた。



## (4) 考察

- ・生徒が和村の生き方から「最初の気持ちを忘れない」、「最後まで諦めない」などの気持ちを引き出すことができた。
- ・歴史上の人物としての紹介ではなく、和村の気持ちの変容に着目して考えることで、気持ちの揺れる部分に共感したり、否定的に捉えたりすることができた。
- ・話の内容のスケールの大きさが中学生にとって大きかった様子が見られたので、全員に平等に伝えられるようにするべきだった。
- ・全員が知らない状態でスタートしているの、前置きで紹介があれば、より和村について知ることができたと思う。

単元名	人物紹介をしよう、盛岡の先人バージョン（英語）	学年	3 学年
-----	-------------------------	----	------

## (1) 単元の目標

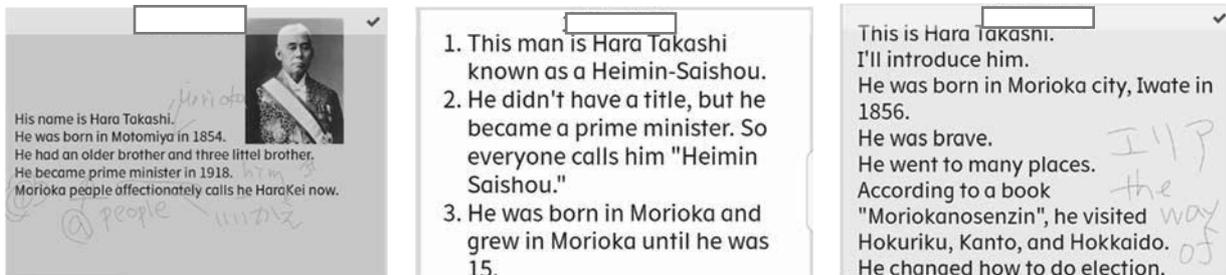
授業で学んだ表現を使って、原敬についてわかりやすくまとめる。

## (2) 活動の様子

英語の授業において、英作文の復習を实践した。ロイロノートを活用し、「原敬について、紹介文を作ってみよう」という課題を設定した。

紹介文には、原敬ならではの出来事や考え方、特徴を紹介することや、5文以上で表現するなど、基本的な紹介の条件を確認し実践した。「盛岡の先人」に書いてある難しい日本語をわかりやすい表現で表すにはどうしたらよいかを自分で考えた。また、英語が得意な生徒には、原敬以外にも、新渡戸稲造についての紹介文を作ることができた。

紹介文を作った後、互いの英作文をロイロノートで交流し、より分かりやすい表現やより適切な表現を考えた。



## (3) 考察

- ・先人について、英文で紹介する機会を設けることにより、より適切な表現を選ぶために、更に日本語の意味を調べなおす姿が見られた。例えば、「平民宰相」とはどんな意味なのか、知らなかった生徒も多かった。
- ・これまでは、通り一遍に読み進めていた様子であったが、何度も何度も開き直し読み直す様子が見られた。
- ・これまでの英語の学習の振り返りで、人物紹介の作文を簡易的に取り入れたので、生き方についてどう思うかというところまで深めることができなかった。

単元名	地域貢献活動	学年	全学年
-----	--------	----	-----

## (1) 目的

地域住民と協力して行う清掃活動等を通して、自分たちが住む地域が安全に生活できるための環境づくりを行うことにより、地域の人々や地域の活動を知り、地域に誇りを持つ生徒を育成する。

## (2) 日時

6月4日(日)、10月1日(日)

### (3) 活動の様子

クリーンアップ作戦という、年2回（6月と10月）の活動を行い、地域に貢献する見中学生を目指している。地域の町内会の役員の方々と協力し、学区内の公園や公民館の清掃活動、通学路の清掃や花壇づくり、草刈り等を行っている。たくさんの生徒が参加し、意欲的に取り組んでいる。また、地域での活動のようすを通信として全校生徒へ配布し、保護者や地域への周知も図っている。

この活動を通して、一緒に作業をしている地域の先輩方の姿や思いから、自分たちの住んでいる地域に誇りを持ち、大切にしていこうという気持ちが育ってきている。地域の方々からも好評である。

単元名	朝読書における取組	学年	全学年
-----	-----------	----	-----

#### (1) 目的

副読本「盛岡の先人」を通して、先人の生き方や功績に触れ、自分自身の生き方を見つめる時間とする。

#### (2) 日時

偶数月（6月、8月、10月、12月、2月）の朝読書の時間

#### (3) 活動の様子

- ・ 6月…原敬について
- ・ 8月…新渡戸稲造について
- ・ 10月…米内光政について
- ・ 12月…金田一京助について
- ・ 2月…石川啄木について

※月末にそれぞれの先人について、感想等を記入する。

## 5 成果と課題

### 【成果】

- ・ 小中間での学習内容を交流する良い機会となった。
- ・ ブロック研修において、盛岡市教育委員会工藤咲香主任指導主事より、盛岡市の先人教育について講義を受け、今年度の方向性を共有することができた。
- ・ 道徳や英語等、教科での取り組みも推進でき、幅広い実践ができた。
- ・ 副読本「盛岡の先人」内の先人だけにとらわれず、地域の先人や盛岡のまちづくりに貢献した人物 という視点で探究活動ができた。

### 【課題】

- ・ 中学校区3校でよいものをつくるために、学校全体で連携を深めていく必要がある。
- ・ 各学年での実践の交流を行い、職員の共通理解を図る。また、取り組みが継続して行われるよう、次年度以降のために資料を蓄積し、引き継いでいくための整理等が必要である。
- ・ 次年度以降は、小・中学校9年間の系統を踏まえた実践交流を行っていきたい。
- ・ 今年度の各学年での取り組みを生かし、次年度以降は郷土盛岡のために尽力した先人等について、より学びを深められる取り組みとしたい。
- ・ 生徒たちにとって「盛岡の先人」の具体的な人物がイメージできず、より深く学習することが難しかったように思われる。地域の開拓や文化の発展に貢献した人物といった具体的な課題を示すべきであった。